笛吹市文化財調査報告書　第18集

山梨県笛吹市

上ノ平A遺跡

中山間地域総合整備事業八代地区米倉農道工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2011

山梨県峡東農務事務所

笛吹市教育委員会

序

笛吹市は平成 21 年に『甲斐国千年の都　笛吹市』を宣言しており、甲斐国の歴史・行政・文化の発展に寄与してきたことを県内外に発信しています。

また、行政区分が確立する以前から笛吹市域に大規模な集落があったことは、釈迦堂遺跡群や花鳥山遺跡、一の沢遺跡、そして身洗沢遺跡などの存在から窺えます。

このように笛吹市には数多くの遺跡が残っており、時には様々な事業に伴って発掘調査が実施されています。

笛吹市を特徴づけるものにモモ・ブドウなどの果樹栽培が挙げられます。今回調査の原因となった整備事業も八代町米倉地区の果樹栽培等の農業振興に大きな役割を果たすことと思います。

さて、この調査報告書は、平成 21 年度に笛吹市教育委員会が本調査を実施した中山間地域総合整備事業八代地区米倉農道工事に伴う発掘調査の結果を記したものです。当遺跡は昭和 59 年の調査では、縄文時代中期・弥生時代後期の住居跡、平安時代の土坑、他に土坑や溝状遺構などが確認されています。

今回の調査の結果、平安時代の住居跡とそれに伴う土器などが発見されました。平安時代の遺構が発見されたことから、この台地上に平安時代の人々が居住していたことが分かりました。

当該地は古代の八代郷に含まれております。八代町域には古代の役所の存在を思わせる地名がいくつか残っています。『米倉』という地名もその字のごとく古代の税の一つである米を集積・貯蔵・搬出するための施設があったことから生まれた地名と考えられています。

本遺跡が立地するのは米倉地区でも台地上に当たります。このことがどういった意味をもつのか考えることにもロマンを感じます。

今回の調査結果が、今後、当地域の歴史解明の一助となれば、幸いであります。

末筆ながら、調査実施に当たりご協力いただいた関係機関ならびに関係者各位に対し、厚くお礼を申し上げます。

平成 23 年 3 月 30 日

笛吹市教育委員会

教育長　山　田　武　人

例　言

1．本書は山梨県笛吹市八代町米倉地内に所在する上ノ平Ａ遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2．発掘調査は、中山間地域総合整備事業八代地区米倉農道工事に伴うもので、笛吹市教育委員会が山梨県峡東農務事務所から委託されて実施した。調査費用は全て事業者負担によるものである。
3．発掘調査は平成21年11月18日から平成22年1月5日まで行った。
4．本報告書の執筆・編集は笛吹市教育委員会文化財課、鷹野義朗が行った。
5．第Ⅳ章　第1節については保坂康夫氏（山梨県立考古博物館）から寄稿していただいた。
6．発掘調査から報告書作成に至るまで、次の諸氏・機関からご指導・ご協力を賜った。記して謝意を表する次第である。

末木 健　小野 正文　出月 洋文　保坂 康夫　保坂 和博　佐々木 満　入江 俊行
山梨県立考古博物館　山梨県埋蔵文化財センター

（順不同・敬称略）

7．本書における出土品および記録図面・写真等は笛吹市教育委員会が保管している。

調査組織

調査事務局　平成21年11月18日～平成23年3月30日
山田 武人（笛吹市教育委員会教育長）
早川 哲夫（笛吹市教育委員会教育次長）
平成21年11月18日～平成22年3月31日
中澤 和朗（笛吹市教育委員会教育部長）
平成22年4月1日～平成23年3月30日
中山 孝仁（笛吹市教育委員会文化財課課長）
平成21年11月18日～平成22年3月31日
小渕 忠秋（笛吹市教育委員会文化財課課長）
平成22年4月1日～平成23年3月30日
伊藤 修二（笛吹市教育委員会文化財課調査担当リーダー）
平成21年11月18日～平成22年3月31日
内田 裕一（笛吹市教育委員会文化財課調査担当リーダー）
平成22年4月1日～平成23年3月30日

調査担当者　望月 和幸（笛吹市教育委員会文化財課調査担当）
鷹野 義朗（笛吹市教育委員会文化財課）

発掘調査作業員　荒川 公子　荒川 奈津江　小田切 健吾　神澤 時子　鈴木 幸子　高野 眞寿美
竹越 妙子　天川 睦美　中込 榊　野沢 きみ江　藤巻 淑子　保坂 洋　馬渕 泰三
馬渕 松子　矢崎 睦美　吉岡 和恵
室内整理作業員　高野 眞寿美　西山 和子　藤原 さつき　藤巻 淑子

凡　例

1．遺構・遺物の縮尺は、原則として各図に示してある。
2．第１図に使用している地図は、国土地理院発行の地形図「甲府」（１：50,000)を使用している。第２図は笛吹市役所発行の都市計画基本図「八代」「境川」（１:10,000）を使用している。
3．土層及び遺物の色調名は、『新版標準土色帖』26版(農林水産省農林水産技術会議事務局監修　小山正忠・竹原秀雄編・著　2004)によっている。
4．掲載した遺構図面の縮尺は下記の通りである。
　竪穴住居・竪穴状遺構…１：60　カマド…１：30　土坑・ピット…１：30　溝…１：80
5．遺物実測図の縮尺は下記の通りである。
　土器…１：３　旧石器…１：１　石鏃…２：３　打斧…１：２　磨石…１：２　石匙…２：３
　スクレイパー…２：３　鉄…１：２
6．遺構図版中に使用しているスクリーントーンの斑点は焼土範囲、斜線は粘土を示している。遺物図版中のスクリーントーンの斑点は黒色土器を示している。また、土器断面が黒塗りは須恵器、斑点は灰釉陶器を示し、それ以外の土器類は白抜きである。
7．表の大きさの(　)は現存値、[　]は推定値を表す。

目　次

序文、例言・凡例・目次、挿図目次、図版目次、表目次
第Ⅰ章　調査の経緯と概要 ……1
第Ⅱ章　遺跡の位置と環境 ……1
　第１節　位置と地理的環境
　第２節　歴史的環境
第Ⅲ章　調査の方法と層位 ……4
　第１節　調査方法と調査経過
　第２節　層位
第Ⅳ章　検出された遺構と遺物 ……9
　第１節　旧石器時代の遺物
　第２節　平安時代の住居
　第３節　竪穴状遺構
　第４節　土坑・ピット
　第５節　溝状遺構
　第６節　遺構外出土遺物、石器・鉄製品
第Ⅴ章　まとめ ……24
写真図版

挿図目次

第１図　遺跡位置図……1
第２図　周辺遺跡分布図……3
第３図　調査区位置図……4
第４図　グリッド設定図……5
第５図　遺構配置図……7
第６図　旧石器時代の石刃状剥片……9
第７図　１号竪穴住居跡……10
第８図　１号竪穴住居跡出土遺物……11
第９図　１号竪穴状遺構……13
第10図　１号竪穴状遺構出土遺物……14
第11図　土坑・ピット……15
第12図　溝状遺構（１）……17
第13図　溝状遺構（２）……18
第14図　溝状遺構出土遺物……19
第15図　遺構外出土遺物（縄文時代）……20
第16図　遺構外出土遺物（古墳・平安時代）……20
第17図　石器・鉄製品……21

図版目次

図版１　１．遺跡調査前状況（南から）
２．遺跡調査区近景（南から）
３．圃場整備地区掘削状況（南から）
４．１号竪穴住居跡検出状況（南から）
５．１号竪穴住居跡完掘状況（南から）
６．１号竪穴住居跡内土坑検出状況（東から）
７．１号竪穴住居跡内土坑完掘状況（南から）
図版２　８．１号竪穴状遺構完掘状況（北から）
９．１号竪穴状遺構焼土塊半裁状況（西から）
10．３号土坑完掘状況（東から）
11．６号ピット完掘状況（南から）
12．１号溝状遺構完掘状況（北から）
13．５号溝状遺構完掘状況（南から）
14．７号溝状遺構完掘状況（南から）
15．９・10号溝状遺構完掘状況（南から）
図版３　16．１号竪穴住居跡出土遺物①
17．１号竪穴住居跡出土遺物②
18．１号竪穴状遺構出土遺物
19．溝状遺構出土遺物
20．遺構外出土遺物（縄文時代）
21．遺構外出土遺物（古墳・平安時代）
22．石刃状剥片
23．石器・鉄製品

表目次

第１表　上ノ平Ａ遺跡１号竪穴住居跡出土遺物観察表……12
第２表　上ノ平Ａ遺跡１号竪穴状遺構出土遺物観察表……14
第３表　土坑・ピット一覧表……15
第４表　上ノ平Ａ遺跡溝状遺構出土遺物観察表……19
第５表　上ノ平Ａ遺跡遺構外出土遺物（縄文時代）観察表……22
第６表　上ノ平Ａ遺跡遺構外出土遺物（古墳・平安時代）観察表……23
第７表　上ノ平Ａ遺跡出土石器・金属製品観察表……23

第Ⅰ章　調査の経緯と概要

上ノ平遺跡は、昭和59年(1984)に八代町教育委員会が県営笛吹川土地改良事業農道拡幅舗装工事及び耕地整備工事に伴い、発掘調査が行われた。そこで縄文時代中期の住居跡３棟、弥生時代後期の住居跡７棟、平安時代の可能性のある12基の土坑、他に各時期の土坑・溝状遺構・ピット、そして同時代の遺物が出土したことが報告されている。遺跡内には、平成８年(1996)に山梨県で実施した測量調査の結果、方墳であることが判明した竜塚古墳が所在している。

平成元年(1989)に八代町教育委員会で実施された遺跡詳細分布調査によって、上ノ平遺跡は遺物の表面採集状況などから、上ノ平Ａ遺跡・上ノ平Ｂ遺跡・大谷沢Ａ遺跡に細分されている。

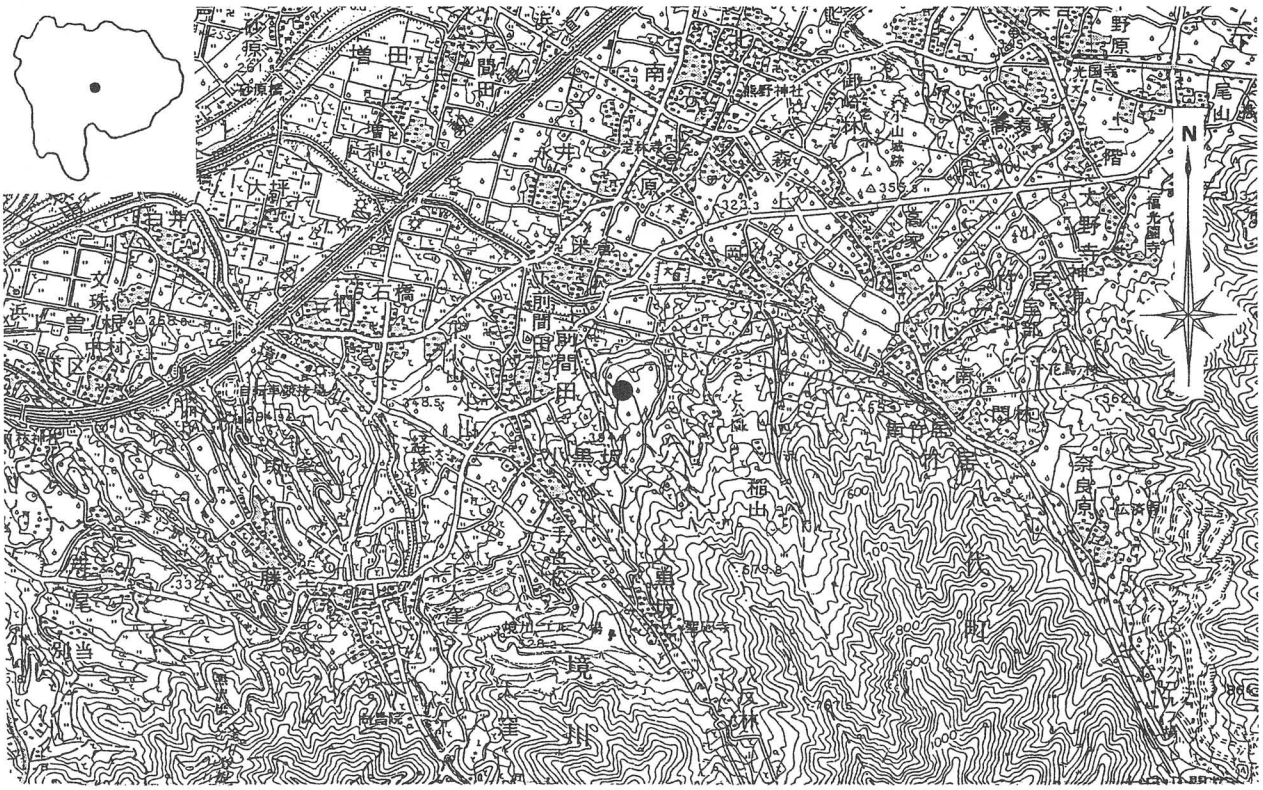
今回報告する上ノ平Ａ遺跡の発掘調査は、山梨県峡東農務事務所が事業主体者となって行われた中山間地域総合整備事業八代地区米倉農道工事に伴い実施されたものである。

今回は、圃場整備及び農道拡幅工事が行われることになり、山梨県峡東農務事務所から施工区内の埋蔵文化財の有無について照会が行われた。そこで笛吹市教育委員会では遺跡地図との照合を行い、施工区内の一部が周知の埋蔵文化財包蔵地である上ノ平Ａ遺跡に位置していることを確認し、その旨を回答した。

今回は早急な調査を要することになり、平成21(2009)年11月12日に現地にて笛吹市教育委員会文化財課と山梨県峡東農務事務所、施工業者で協議を行った。

そして、上ノ平Ａ遺跡と上ノ平Ｂ遺跡の谷間に当たる圃場整備部分は広範囲に及ぶことから縦に長いトレンチを３箇所設定し、遺構が確認できれば全範囲の調査を行うこととした。農道拡幅部分は丘陵上に位置しており、昭和59年の周辺調査において遺構が確認されているので、掘削できない箇所を除き、その他は掘削を行い遺構が確認された場所を中心に調査を行い、記録保存を行うこととした。

第Ⅱ章　遺跡の位置と環境



第１図　遺跡位置図（S=1:50,000）

第１節　位置と地理的環境

山梨県笛吹市は、甲府盆地の中央部やや東寄りに位置し、北部の秩父山地へ続く山々及び東南部の御坂山塊に連なる丘陵山岳地帯と、笛吹川とその支流に形成された扇状地及び沖積平地帯で構成されている。

本遺跡が立地する笛吹市八代町域は、甲府盆地の南東縁に位置し、南東部には御坂山脈の中央部の山地が広がり、北側に笛吹川、東側に天川、西側に浅川が流れている。地形的には、御坂山塊北斜面の山地と丘陵、崖錐地域、浅川の扇状地、笛吹川の沖積地に分けられる。八代町域の大半は、神座山を水源とし御坂山地から甲府盆地に向かって流れている浅川を主体として形成された浅川扇状地が展開している。

そのなか上ノ平Ａ遺跡は、浅川の左岸の丘陵上に位置している。この丘陵は、甲府盆地の南東縁を市川三郷町から笛吹市境川町まで連なっている曽根丘陵の東側に続く上ノ平の丘陵である。通称では「竜安寺山」とも呼ばれている。この丘陵は盆地から急傾斜で立ち上がり、丘陵上には東西300m、南北600mほどの広さを有する北向きの緩やかな傾斜の平坦部がある。本遺跡はその外れの標高380mから410mの所に位置している。台地の後背は御坂山塊へと続いている。丘陵の東側には大谷沢川が、西側には竜安寺川が流れており、それぞれ深い沢を形成しており、水資源も豊かな土地である。また、本遺跡からは甲府盆地を概ね180度の視野で一望でき、集落の立地条件としては、非常に良好な場所である。

平成元年に八代町教育委員会で実施した遺跡詳細分布調査では、遺物の表面採集状況などから、上ノ平Ａ遺跡・上ノ平Ｂ遺跡・大谷沢Ａ遺跡と細分されている。境川町域の真福寺遺跡も隣接しており、ともに同じ性格を有しており、一連の集落遺跡と考えられている。

第２節　歴史的環境

笛吹市には縄文時代、古墳時代、奈良・平安時代を中心とした遺跡が濃密に分布し、複数の時代におよぶ遺跡が多い。

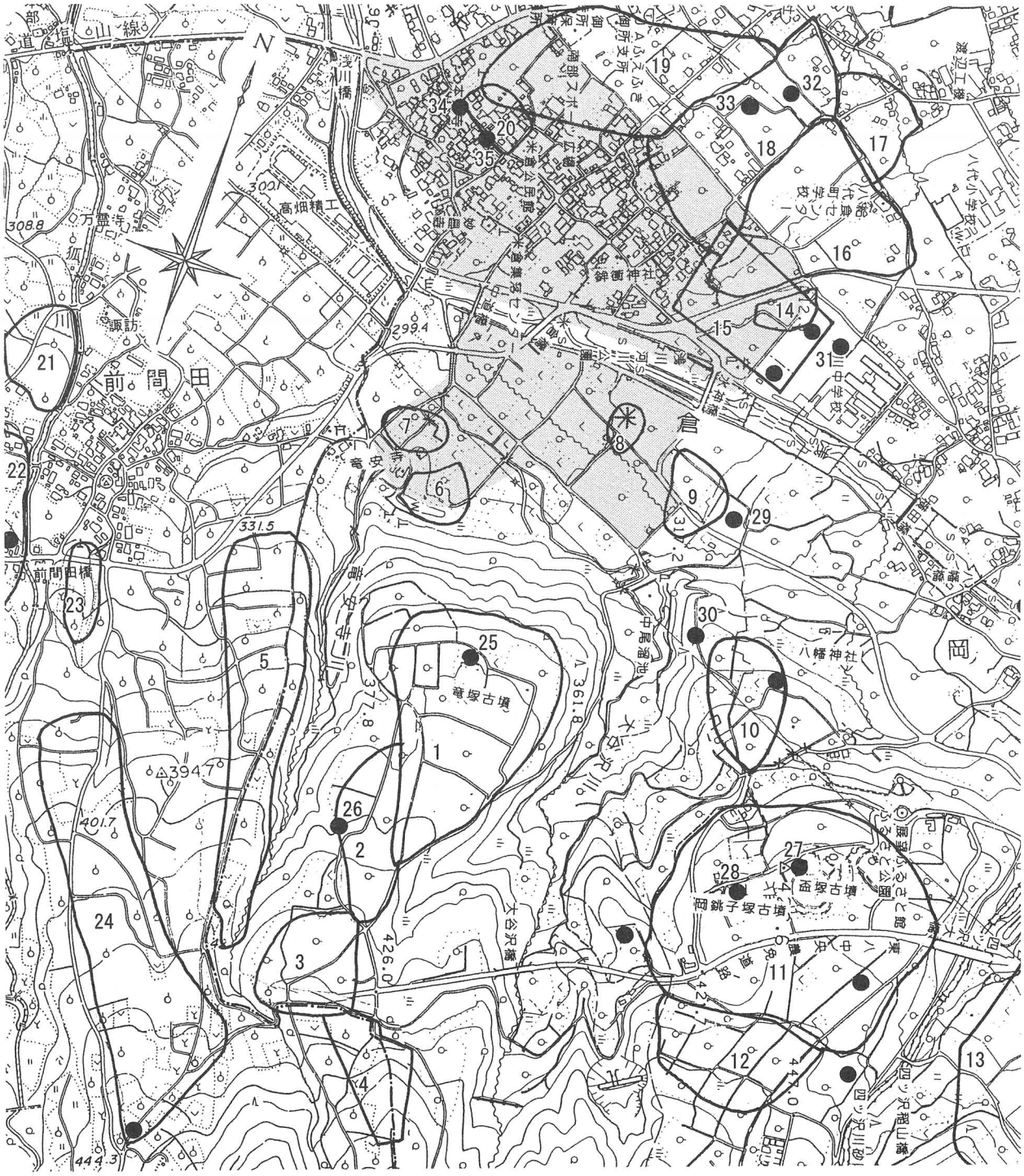
八代町は平成元年に行われた分布調査で216の遺跡が確認されているように、遺跡が多い地域として周知されている。遺跡は山地を除く町内のほぼ全域に広がっており、時期的に分布の粗密が見られるが、旧石器時代から近世と多岐にわたっている。なかでも縄文時代前期～平安時代の遺跡が多く、主に丘陵や浅川扇状地上に集中して分布している。このことは古くから生活場所として利用されていたことを示している。

御坂山地の山麓から浅川扇状地にかけての一帯は、縄文時代からの遺跡が濃密に分布する地域と知られている。特に縄文時代では、前期の集落遺跡である花鳥山遺跡が挙げられる。多量の土器群の他、獣骨や魚骨、堅果やエゴマなど当時の食生活に関する幅広い自然資料が出土した遺跡として知られている。また、弥生時代後期の集落遺跡である身洗沢遺跡があり、県内で初めて水田跡が検出された遺跡として知られている。

そして、本遺跡周辺は甲府盆地において濃密な古墳の分布域である曽根丘陵に並ぶ丘陵地であり、本遺跡内には県内唯一の方墳である竜塚古墳がある。そして、八代町岡の上ノ原の丘陵には前方後円墳の岡・銚子塚古墳がある。

八代町域には奈良・平安時代にかけての集落遺跡も分布し、八代町永井に所在する瑜伽寺では、白鳳～天平期の薬師如来塑像を持ち、甲斐国分尼寺出土瓦と同范と思われる軒平瓦が出土している。現在の笛吹市域は律令制下では、山梨郡と八代郡に属し、『和名類聚抄』によると八代町域は八代郷と長江郷に比定されている。八代郷は郡名の由来になっており、高家や米倉といった郡家や古代官衙に関わる地名遺称もみられることから、郡家やその他の官衙施設が所在した地である可能性が考えられている。

平安時代には熊野社領となる八代荘が成立し、『長寛勘文』にみられる国司と荘園領主の対立から、国司側が敗北した荘園停廃事件が起こる。この事件に連座した在庁官人の三枝氏は没落し、中世には国中地方の各地で勢力を広げた甲斐源氏の一族が町域にも進出する。



1. 上ノ平Ａ遺跡　2. 上ノ平Ｂ遺跡　3. 大谷沢Ａ遺跡　4. 真福寺遺跡　5. 竜安寺川西遺跡
6. 金山遺跡　7. 花田遺跡　8. 大仏塚遺跡　9. 夜長遺跡　10. 八幡遺跡　11. 銚子原遺跡
12. 稲山原遺跡　13. 大覚林遺跡　14. 土井原遺跡　15. 米倉氏館跡　16. 天神原遺跡　17. 下原遺跡
18. 今宮遺跡　19. 町屋遺跡　20. 米倉氏館跡　21. 曽利田遺跡　22. 中丸東遺跡　23. 東西原遺跡
24. 仲原遺跡　25. 竜塚古墳　26. 富士塚古墳　27. 盃塚古墳　28. 岡・銚子原古墳　29. 大仏塚古墳
30. 鳩峰古墳　31. 石塚古墳　32. 古柳塚古墳　33. 大塚古墳　34. 雌蝶塚古墳　35. 雄蝶塚古墳

＊スクリーントーン部分は条里制遺構の範囲

第２図　周辺遺跡分布図（S=1:10,000）

第Ⅲ章　調査の方法と層位

第１節　調査方法と調査経過

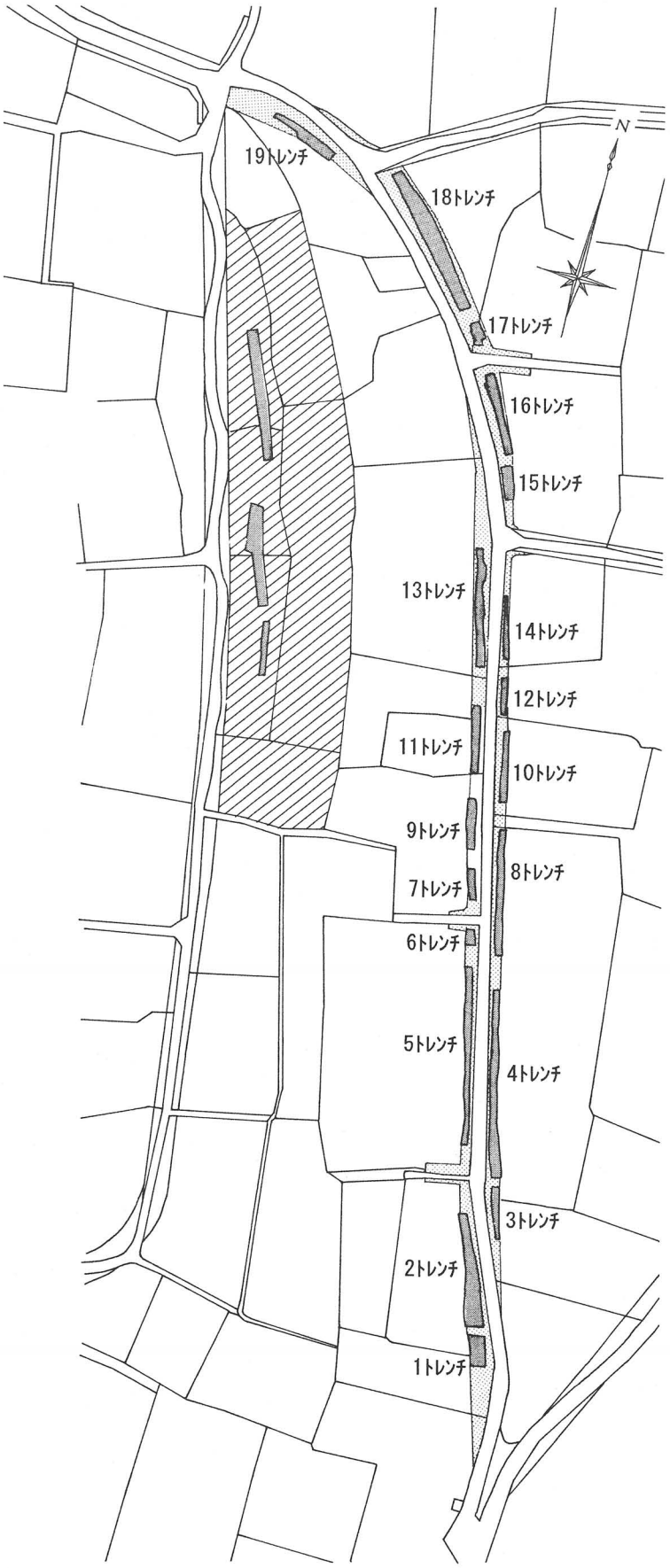
今回の調査は、平成21年11月18日～平成22年１月５日に実施した。調査対象面積は圃場整備地区2518㎡、農道拡幅地区1520㎡であった。

11月18日から20日まで範囲内の圃場整備地区及び農道拡幅地区に、重機による表土除去を実施した。圃場整備地区には３つのトレンチを設定、農道拡幅地区には畑への侵入路や既存道路など掘削できない箇所を除き表土を除去した。農道拡幅地区の調査は道路拡幅部分及び擁壁部分の極めて狭い幅のトレンチ調査となっている。表土の掘削は遺構確認面直上まで行い、その後人力による遺構確認を行った。

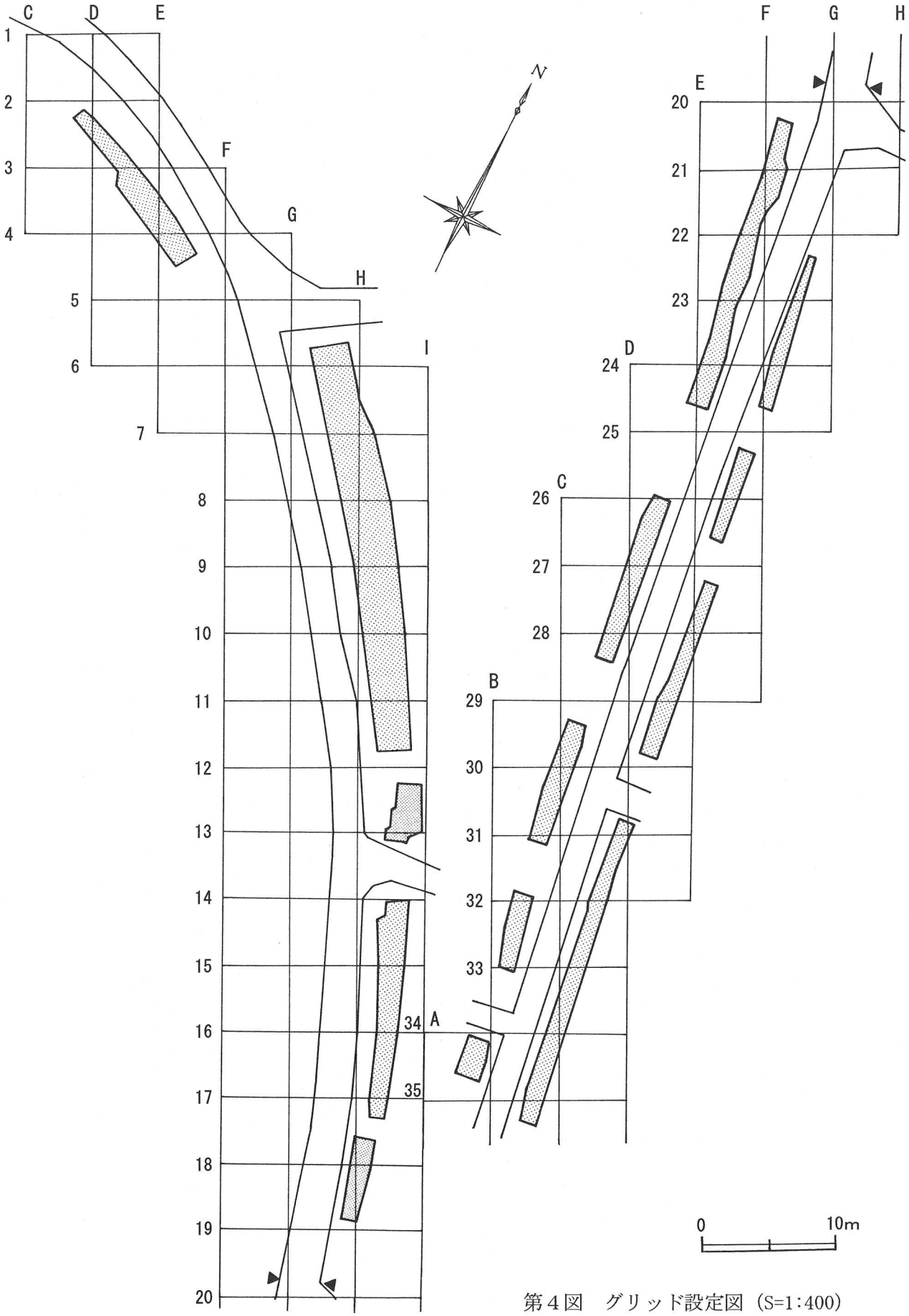
19 日～23 日に圃場整備地区の調査を行ったが、遺構・遺物は確認されず、調査終了とした。

24 日からは農道拡幅地区の調査に移行した。農道拡幅地区においては、調査の便宜をはかるため、調査区南側から「第１トレンチ、第２トレンチ…」という名称を19ヶ所つけて調査を実施した。また、調査区には５m四方のグリッドを設定した。

グリッドは西から東に向かってＡ・Ｂ・Ｃ…Ｉのアルファベットを、北から南に向かって１・２・３…35の算用数字を用いて呼称している。



第３図　調査区位置図（S=1:1,250）



第４図　グリッド設定図（S=1:400）

確認された遺構は、確認されたものから順次遺構番号を付して調査を行った。遺構の測量については、平板による平面測量を中心とし、カマドに関しては平板測量と遣り方測量を併用した。

出土した遺物に関しては、原位置が判明する直径３ｃｍ以上の大きさを測る土器片等はナンバリングして平板で取り上げていった。覆土中の小破片については各トレンチ及び遺構一括出土遺物として扱った。

調査経過

平成21年

11月18日	重機による表土剥ぎ開始（～20日）。	11月19日	圃場整備地区の調査開始。
11月23日	圃場整備地区の調査終了。	11月24日	第19トレンチ調査開始。
11月25日	第１トレンチ～６トレンチ調査開始。	12月１日	第７トレンチ～９トレンチ調査開始。
12月２日	第８トレンチ内溝状遺構調査開始。	12月３日	第10トレンチ～13トレンチ調査開始。
12月４日	第13トレンチ内竪穴住居調査開始。	12月７日	第10トレンチ内溝状遺構調査開始。
12月９日	第14トレンチ～18トレンチ調査開始。	12月10日	第11トレンチ内土坑調査開始。
12月14日	第17トレンチ内竪穴状遺構調査開始。	12月15日	第12トレンチ内溝状遺構調査開始。
12月16日	第15トレンチ内溝状遺構調査開始。	12月17日	第16トレンチ内溝状遺構調査開始。
12月21日	第14トレンチ内溝状遺構調査開始。	12月22日	第18トレンチ内遺構調査開始。
12月24日	全体図作成。	12月25日	遺跡調査区全景撮影。

調査の結果、平安時代の竪穴住居１棟、竪穴状遺構１基、土坑・ピット９基、溝状遺構10条が検出された。そして、平成22（2010）年１月５日に機材を撤収して、現地調査終了とした。１月19日に埋蔵文化財保管書及び埋蔵文化財調査終了報告、埋蔵物発見届けを山梨県教育委員会・笛吹警察署に提出した。

その後、他の遺跡の発掘調査や室内整理作業、調査報告書の作成等を行いながら断続的に整理作業を行い、平成23(2011)年３月に調査報告書を刊行するに至った。

これらの調査経費と報告書作成に至るまでの整理作業費を山梨県峡東農務事務所が負担している。

第２節　層位

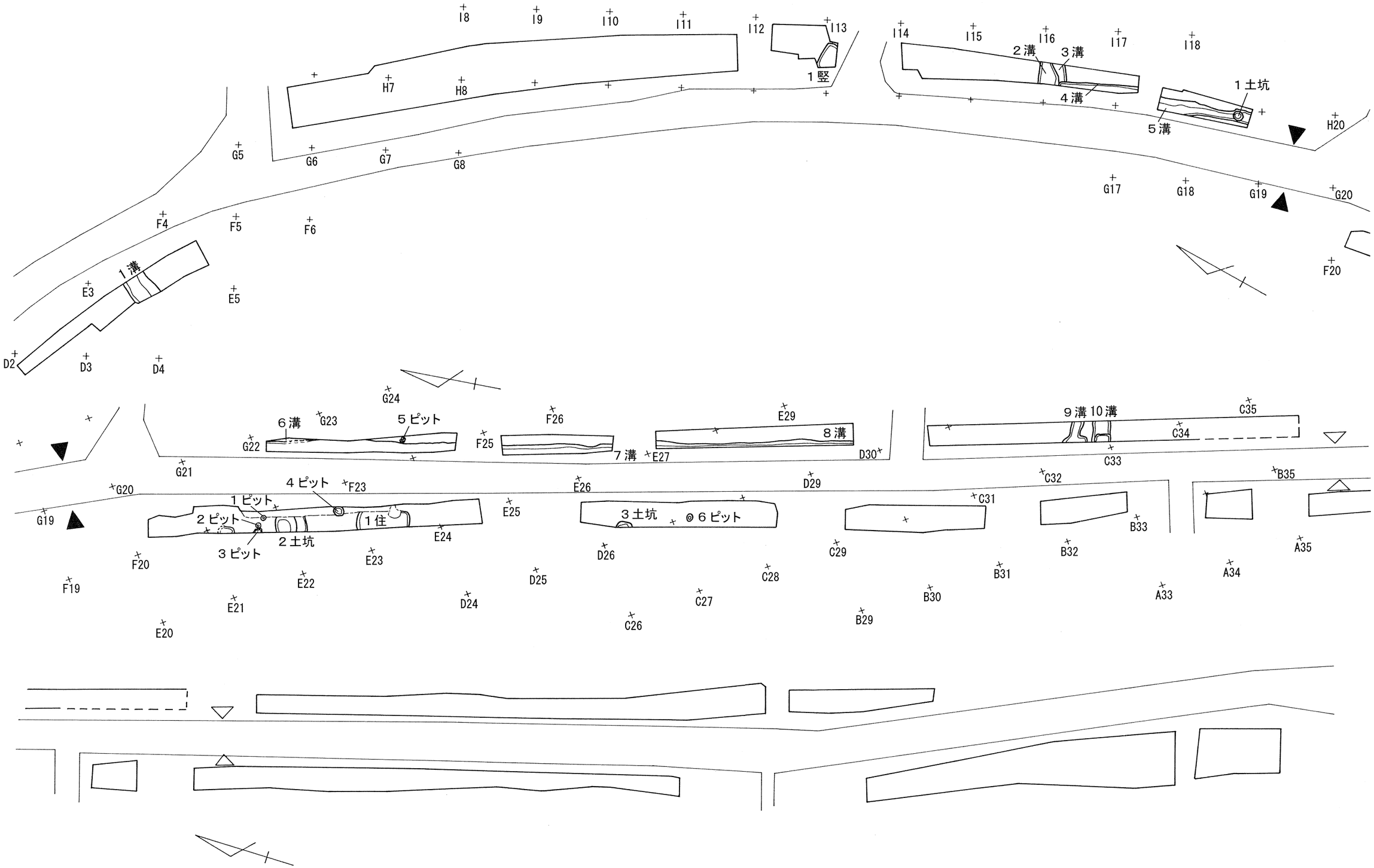
本遺跡の基本層序は次に示すとおりである。

圃場整備地区

Ⅰ層　表土(耕作土)
Ⅱ層　黒褐色土
Ⅲ層　赤褐色土、地山(真土)

農道拡幅地区

Ⅰ層　表土(耕作土)
Ⅱ層　暗褐色土
Ⅲ層　黒色土(遺物包含層)
Ⅳ層　明褐色土、地山(ローム質土)



第５図　遺構配置図（S=1:250）

Ⅳ章　検出された遺構と遺物

第１節　旧石器時代の遺物（第６図、図版３）

18 トレンチ、H－11 グリッドから旧石器時代の石器が１点出土した。縄文時代の遺物包含層を精査しているときに出土したもので、実測図の作成およびトレース、原稿については保坂康夫氏にお願いした。

旧石器時代の石刃状剥片

笛吹市八代町上ノ平A遺跡のH－11 グリッドより、平安時代などの遺物と混在して出土した。珪質頁岩製の石刃状剥片である。この資料を旧石器時代のものと判断したのは、以下の理由がある。

まず、形態が石刃状を呈することがある。石刃は、剥片の長さが幅の２倍以上で、両側縁が平行し、背面中央に側縁に平行する稜線がみられるものである。背面の剥離方向が、主要剥離面の剥離方向と同一のものばかりであれば、旧石器時代に特徴的な石刃技法により剥離されたものと判断できる。今回報告する資料では、背面を構成する剥離面が３枚あり、そのうち２枚が主要剥離面の剥離方向と同一方向であるが、本資料と同程度以上の大きさの剥片を剥離したのは１枚のみである。したがって、本資料が石刃技法により剥離された可能性はあるものの、確実なものとはいえない。本資料は、形態的には石刃の定義の範囲内ではあるが、石刃技法によるものかは不確実なので、石刃状剥片との呼称を用いた。

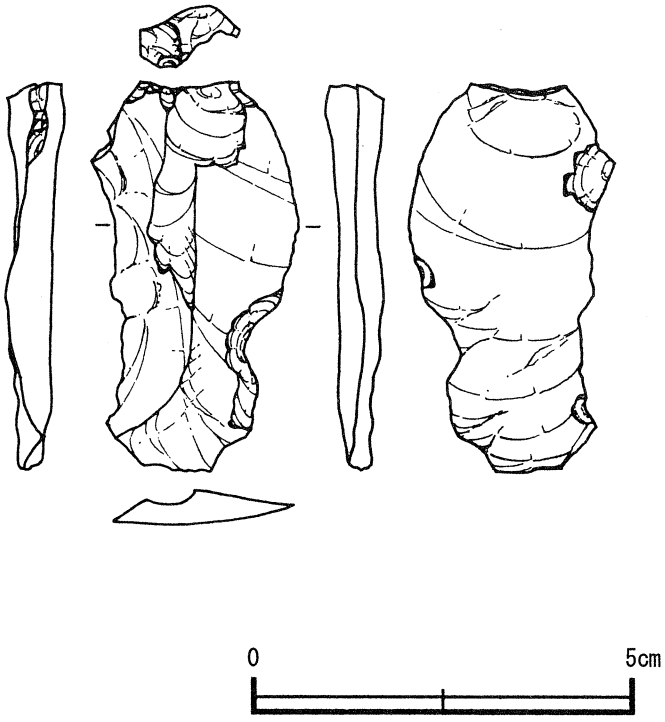
第２に、明確な打面を持つ点があげられる。複数の剥離面より構成される複剥離面である。打面左側の小剥離群は、打面調整によるものと思われ、その打面縁には、背面側に頭部調整と思われる微細離群もみられる。こうした打面調整は、旧石器時代の剥片剥離手法に特有なものである。

第３に、石材である珪質頁岩が縄文時代では使用例が少ない点があげられる。わずかな使用例でも、風化の度合いに違いがある。本資料は、白い筋が明瞭であるなど、旧石器時代のものと同程度に風化が進んでいる。

以上の特徴の他に、正面左縁上部に肩部を持っている。この面は、別の剥離作業面の可能性もあり、剥片剥離作業面を多数持つ石核から剥離されたもので、剥離打面を頻繁に転位する剥離手法で剥離された剥片である可能性を示唆するものかもしれない。また、若干の二次加工がみられるが、石器形態を特定できるほどに加工が進んでおらず、意図が不明確である。

旧石器時代遺物が、単独で出土することが、甲府盆地内の遺跡でたびたび報告されている。特に、ナイフ形石器や槍先形尖頭器などの形態の明瞭な石器が多く、周辺を掘り下げても、石器製作の痕跡などが把握されない場合もある。今回は剥片であり、石器製作の痕跡が周辺に確認される可能性もあり、今後の注意深い調査が期待される。

（保坂康夫）

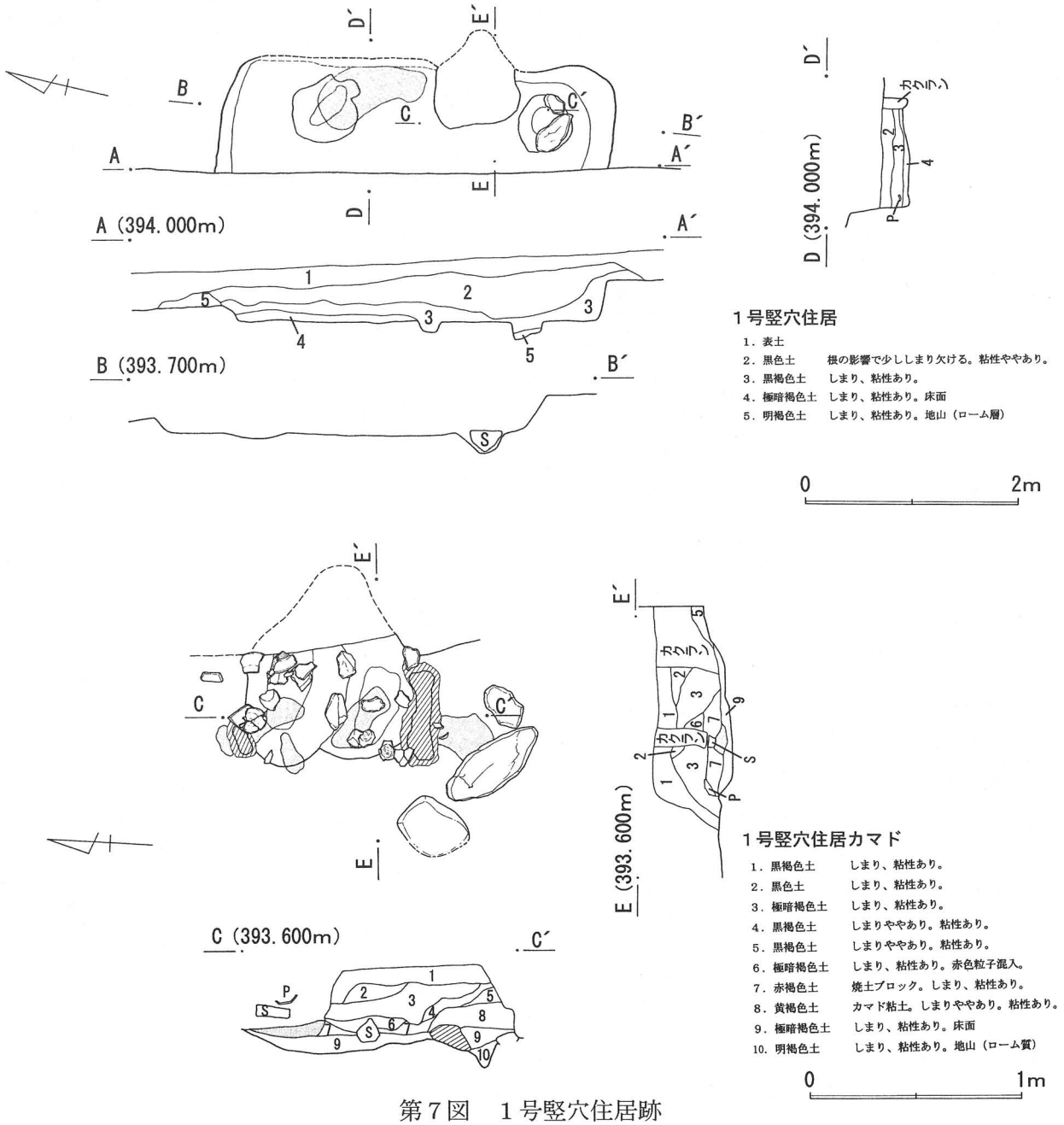


第６図　旧石器時代の石刃状剥片

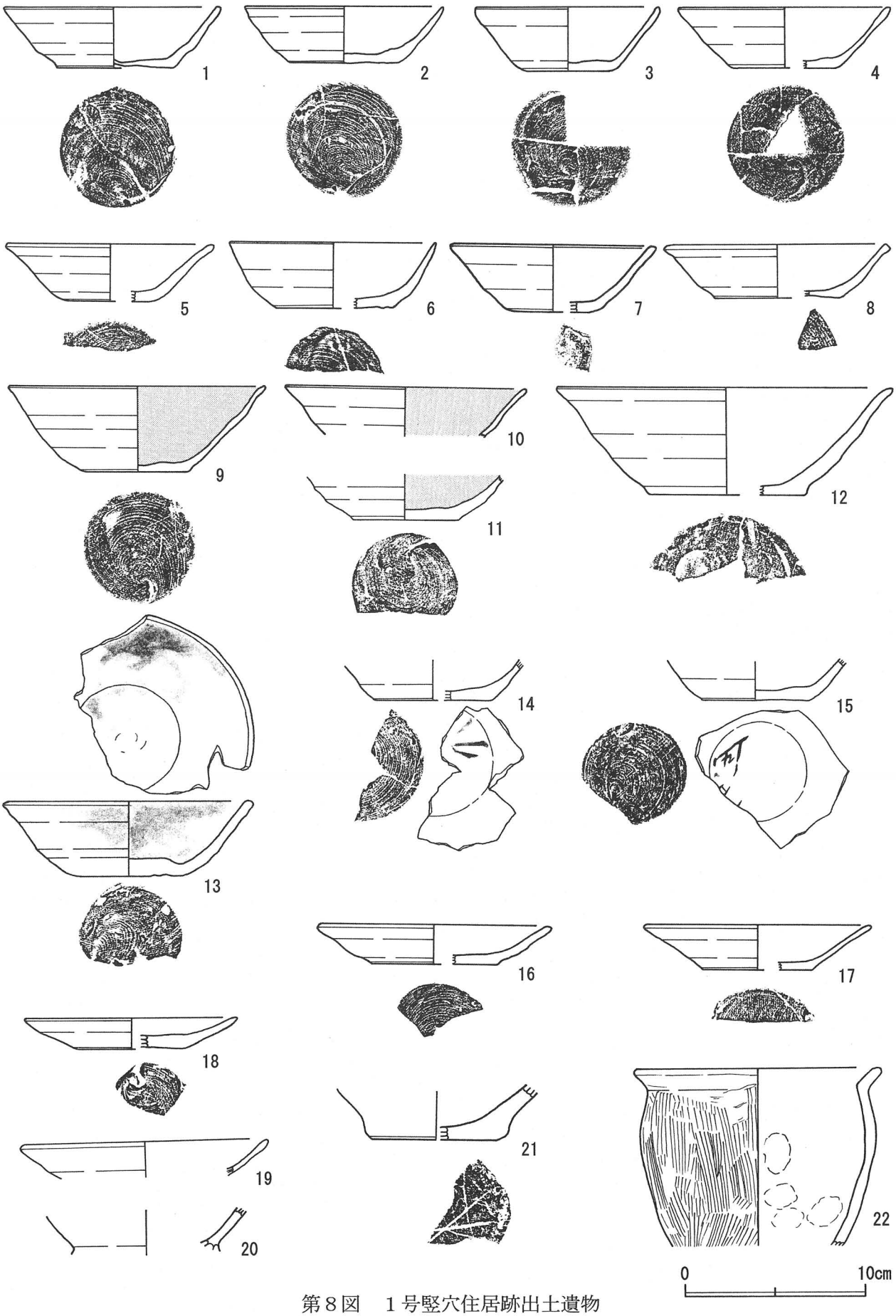
第２節　平安時代の住居

１号竪穴住居(第７・８図、図版１、第１表)

(位置)第 13 トレンチ南北ライン西側、Ｅ－22・23 グリッドにて検出。**(遺存状況)**遺構の西半分が調査区外に延びている。本遺構の東側の一部は撹乱を受けており、住居北西の壁とカマドの一部及び煙道は確認できなかった。**(形態・規模等)**形態は隅丸方形を呈し、南北軸は約 3.7mを測る。**(壁・壁溝・床面等)**壁溝は不明。竪穴部の確認面からの深さは最大 40ｃｍを測り、床面は貼床で、全体的に堅固であった。カマド周辺以外に１ヶ所焼土範囲が確認された。**(その他施設)**南東コーナー部に円形を呈する土坑を検出。径 50ｃｍ、深さ 20ｃｍを測る。土坑内から床面と同レベルに位置する礫が出土していたが、上面は根による撹乱を受けていたため、竪穴住居当時のものか、崩壊時に入れられたものかは不明。柱穴は不明。**(カマド)**東壁において石組カマドを検出。**(出土遺物)**カマド周辺部を中心に散在的に出土している。土師器坏(１～13)・墨書土器(14・15)・土師器皿(16～19)・高台付坏(20)・甕(21・22)などが出土している。**(時期)**11 世紀前半。



第７図　１号竪穴住居跡



第８図　１号竪穴住居跡出土遺物

第１表　上ノ平Ａ遺跡１号竪穴住居跡出土遺物観察表

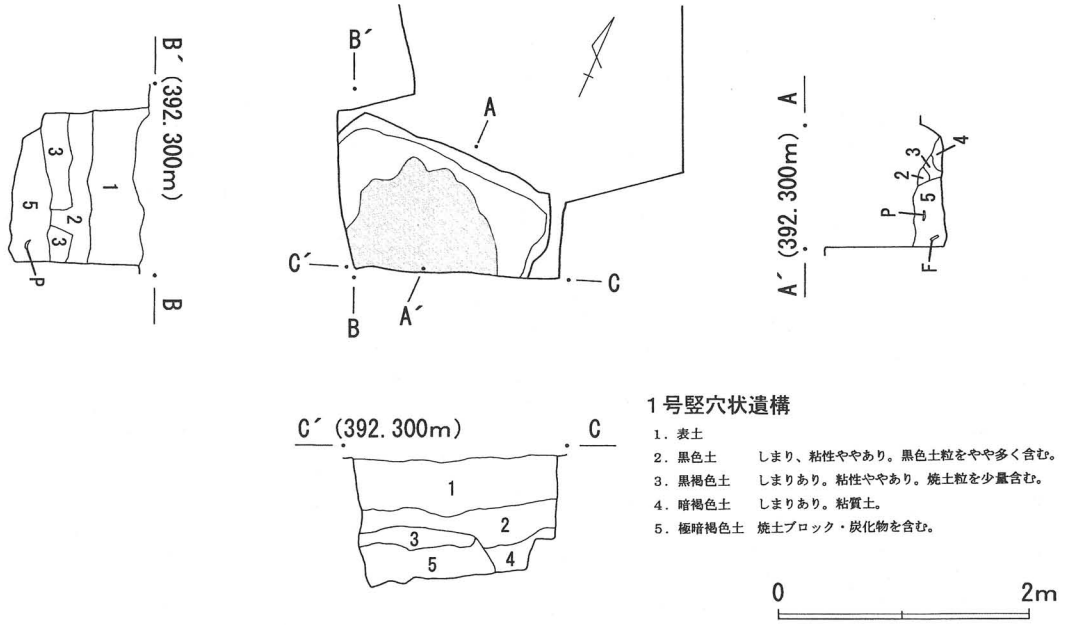
遺物番号	種別	器種	口径 底径 器高(cm)	調整/施文/技法	胎土/焼成/色調	備考	挿図
1	土師器	坏	12.3 6.4 3.4	内外面―ロクロナデ 底部―回転糸切り	密（赤・黒色粒子） 良好 褐色	底部に指頭痕によるへこみ有り。	8-1
2	土師器	坏	11.5 6.2 3.2	内外面―ロクロナデ 底部―回転糸切り	密（赤色粒子） 良好 明赤褐色	内・外面にススが少量付着。	8-2
3	土師器	坏	(10.4) 5.6 3.6	内外面―ロクロナデ 底部―回転糸切り	密(白・赤色粒子) 良好 内：褐色　外：明赤褐色		8-3
4	土師器	坏	(12.0) (6.0) 3.4	内外面―ロクロナデ 底部―回転糸切り	密（赤・黒色粒子） 良好 明赤褐色	内外面にスス付着。	8-4
5	土師器	坏	(11.8) (5.0) 3.2	内外面―ロクロナデ 底部―回転糸切り	密（白・赤色粒子） 良好 明赤褐色	内面が少し磨滅。	8-5
6	土師器	坏	(11.6) (6.6) 3.7	内外面―ロクロナデ 底部―回転糸切り	密（赤色粒子） 良好 褐色	底部に回転糸切りを施した後、歪みを直すためのヘラ削りを施す。	8-6
7	土師器	坏	12.0 (4.6) 3.8	内外面―ロクロナデ 底部―回転糸切り	密（赤色粒子） 良好 赤褐色		8-7
8	土師器	坏	(13.0) (7.2) 3.0	内外面―ロクロナデ 底部―回転糸切り	密（白色粒子） 良好 褐色		8-8
9	土師器	坏	(14.6) 6.0 4.8	内外面―ロクロナデ 底部―回転糸切り	密（白・黒色粒子） 良好 内：オリーブ黒色 外：明褐色	黒色土器(内黒土器)。	8-9
10	土師器	坏	(13.6) ― 2.8	内外面―ロクロナデ	密（黒色粒子） 良好 内：オリーブ黒色 外：明褐色	黒色土器(内黒土器)。	8-10
11	土師器	坏	― 6.0 ―	内外面―ロクロナデ 底部―回転糸切り	密（白・赤色粒子） 良好 内：オリーブ黒色 外：明褐色	黒色土器(内黒土器)。	8-11
12	土師器	坏	(19.0) (9.0) 6.0	内外面―ロクロナデ 底部―回転糸切り	密（白・赤色粒子） 良好 明赤褐色	内面の磨滅が顕著。	8-12
13	土師器	坏	(14.0) (6.0) 4.2	内外面―ロクロナデ 底部―回転糸切り	密（赤・黒色粒子） 良好 褐色	内面にスス付着。	8-13
14	土師器	坏	― (6.4) ―	内外面―ロクロナデ 底部―回転糸切り	密（赤色粒子） 良好 明赤褐色	墨書土器。文字は不明。	8-14
15	土師器	坏	― (5.4) ―	内外面―ロクロナデ 底部―回転糸切り	密（赤色粒子） 良好 赤褐色	墨書土器。文字は不明。 内面にスス付着。	8-15
16	土師器	皿	(13.4) (7.2) 2.2	内外面―ロクロナデ 底部―回転糸切り	密（赤色粒子） 良好 明赤褐色		8-16
17	土師器	皿	(12.8) (6.2) 2.5	内外面―ロクロナデ 底部―回転糸切り	密（赤・黒色粒子） 良好 褐色	二次焼成を受ける。	8-17

18	土師器	皿	(12.0) (6.0) 1.2	内外面―ロクロナデ 底部―回転糸切り	密（白・赤色粒子） 良好 褐色		8-18
19	土師器	皿	(13.6) ― ―	内外面―ロクロナデ	密（白・赤色粒子） 良好 明赤褐色		8-19
20	土師器	高台付坏	― ― ―	内外面―ロクロナデ	密(赤色粒子) 良好 明赤褐色		8-20
21	土師器	甕	― (7.2) ―	底部―木葉痕	密（金雲母・長石・石英・白色粒子） 良好 褐色	外面にスス付着。	8-21
22	土師器	小型甕	(14.0) ― (10.0)	内面―ナデ、指頭痕 外面―ハケメ、指頭痕	密（金雲母・長石・石英・赤・黒色粒子） 良好 明赤褐色		8-22

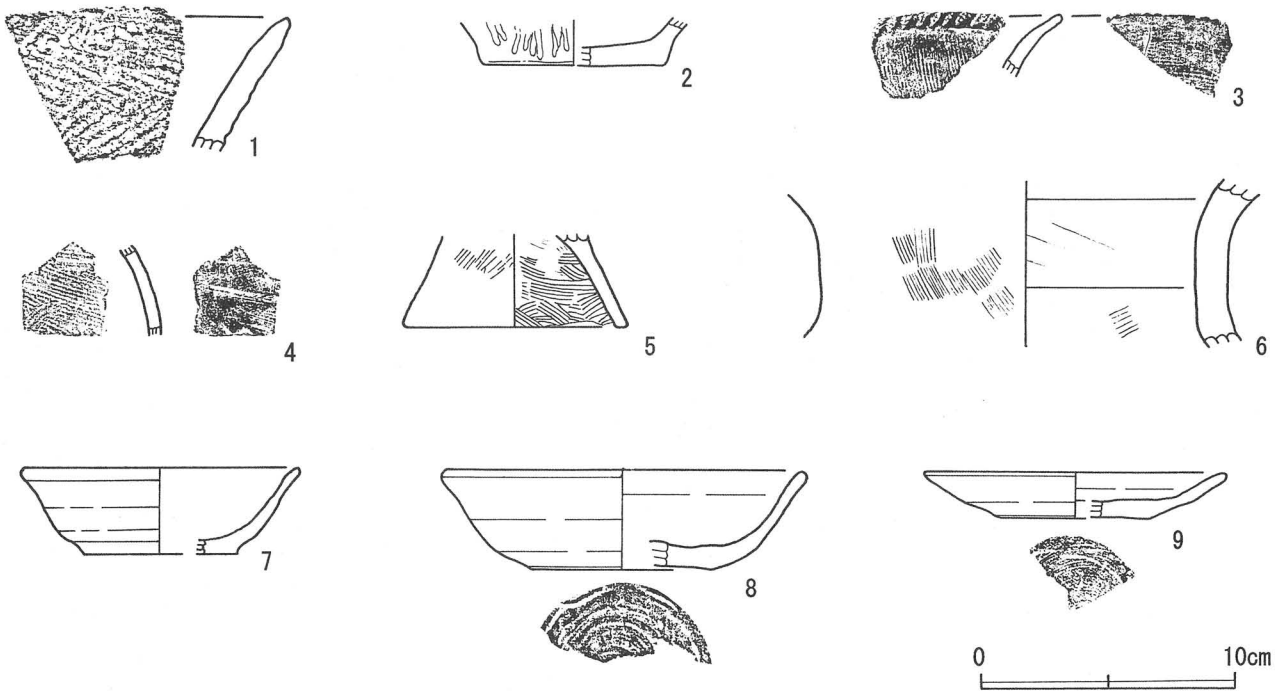
第３節　竪穴状遺構

１号竪穴状遺構(第９・10図、図版２、第２表)

(位置)第17トレンチ南側、H－12・13グリッドにて検出。**(遺存状況)**北半分が検出されて調査区南側に延びる。**(形態・規模等)**一部の検出のため不確定であるが、方形を呈すると思われる。**(壁・壁溝・床面等)**竪穴部の確認面からの深さは最大25ｃｍを測る。遺構覆土より焼土塊を検出。焼土塊は焼土ブロックや粘土を含んでいた。炉やカマドは検出されず、竪穴住居となるかは不明。**(出土遺物)**覆土中からは縄文時代前期後半（１）、弥生時代後期（２～３）・古墳時代（４～６）・平安時代(７～９)が出土している。また、石鏃（17－１）と鉄製品（17－８）が出土している。**(時期・備考)**時期は平安時代（11世紀前半）の土器が出土しているので、平安時代以降に掘り起こされた遺構と考えられる。



第９図　１号竪穴状遺構



第10図　1号竪穴状遺構出土遺物

第2表　上ノ平A遺跡1号竪穴状遺構出土遺物観察表

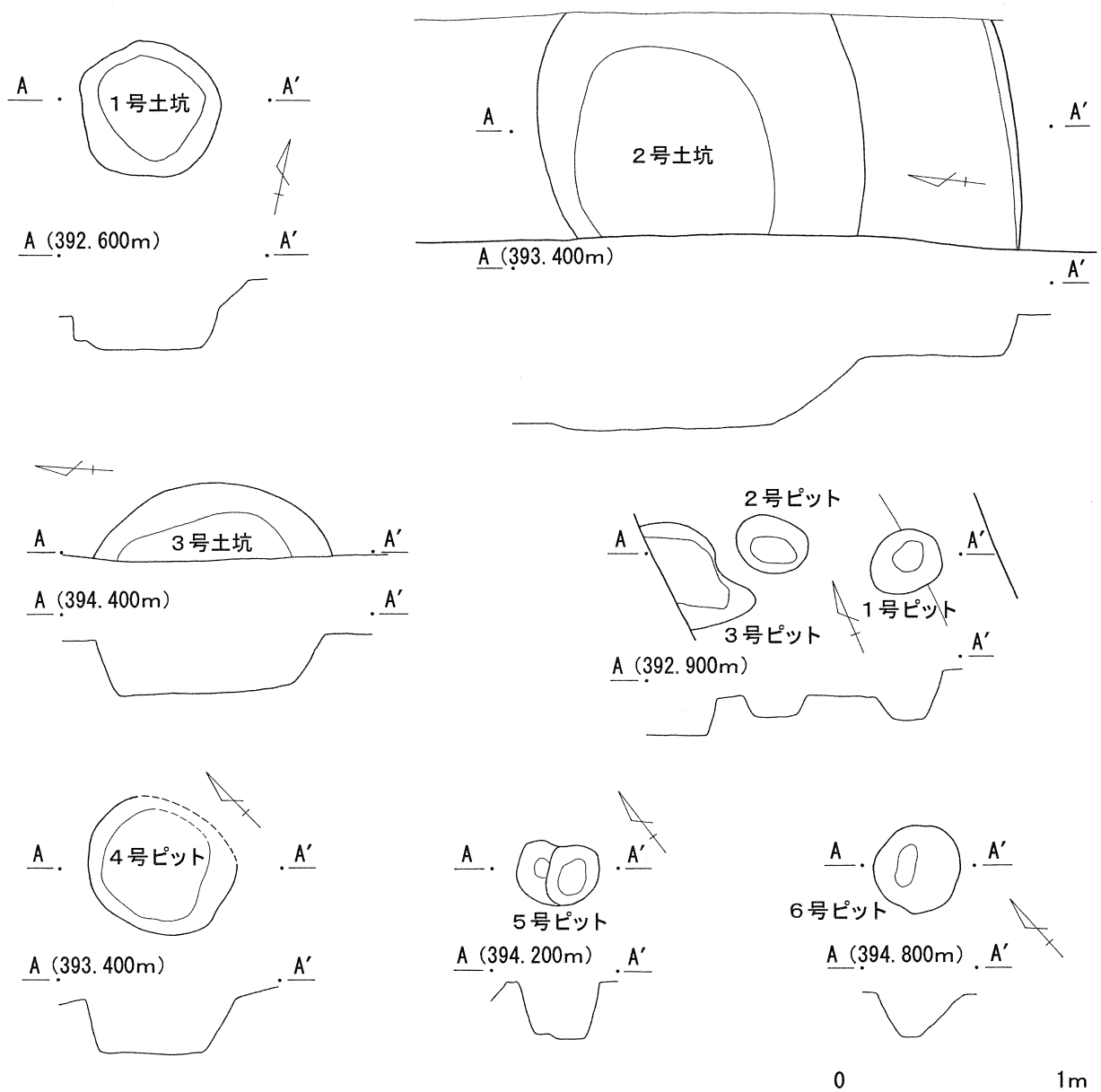
遺物番号	種別	器種	口径 底径 器高(cm)	調整/施文/技法	胎土/焼成/色調	備考	挿図
1	縄文	—	— — —	RLの単節縄文による羽状縄文	密（長石・赤色粒子） 良好 褐色	胴部片。縄文時代前期後半。	10-1
2	弥生	壷型土器	— (7.0) —	内外面—赤色塗彩、ヘラ磨き 底部内—赤色塗彩	密（白・赤色粒子） 良好 内外：暗赤褐色 底部外：褐色	底部。弥生時代後期。	10-2
3	弥生	台付甕	— — —	内面－横位ハケメ 外面—縦位ハケメ 口唇部に刻目	密（雲母・白色粒子） やや不良 黄褐色	口縁部。弥生時代後期。	10-3
4	古墳	台付甕	— — —	内外面—ハケメ	密（白色粒子） 良好 黄褐色	胴部。	10-4
5	古墳	台付甕	— — —	内外面—ハケメ	密（白・赤色粒子） 良好 褐色	脚部。	10-5
6	古墳	有段口縁壷	— — —	内面—ヘラ削り 外面—ハケメ	密（長石・白色粒子） 良好 褐色	表面剥離が顕著。	10-6
7	土師器	坏	(11.0) (6.0) 3.4	内外面—ロクロナデ 底部—回転糸切り	密（赤色粒子） 良好 赤褐色		10-7
8	土師器	坏	(14.0) (7.0) 4.0	内外面—ロクロナデ 底部—回転糸切り	密(長石・白色粒子） 良好 褐色		10-8
9	土師器	皿	(12.0) (6.2) 2.1	内外面—ロクロナデ 底部—回転糸切り	密（白・赤色粒子） 良好 明褐色		10-9

第4節　土坑・ピット(第11図、図版2、第2表)

今回の調査では発掘調査時において確認された土坑は3基、ピットは6基である。各土坑ともに遺物は出土されず時期は判別できなかった。

第3表　土坑・ピット一覧表

No.	位置 (Grid)	形状	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	備考
1号土坑	15Tr(G-18)	円形	0.6	0.6	0.18	5号溝を掘り込む。
2号土坑	13Tr(E-23)	(楕円形)	—	—	0.5	
3号土坑	11Tr(D-26)	(楕円形)	1.05	—	0.25	
1号ピット	13Tr(E-21)	楕円形	0.32	0.29	0.1	
2号ピット	13Tr(E-21)	楕円形	0.32	0.24	0.08	
3号ピット	13Tr(E-21)	不整円形	0.51	0.16	0.18	
4号ピット	13Tr(E-22)	円形	0.66	0.6	0.26	
5号ピット	14Tr(F-23)	(楕円形)	0.36	0.26	0.26	ピット状の掘り込みがある。
6号ピット	11Tr(D-27)	(楕円形)	0.3	0.4	0.2	



第11図　土坑・ピット

第５節　溝状遺構(第12・13・14図、図版２、第４表)

溝状遺構は、総計10条検出されている。そのうち４・５・６・７・８号溝状遺構は同一のものと考えられる。出土遺物は少量で時期や性格を判別することはできなかった。内部は黒褐色土・黒色土が充満していた。同様の遺構は真福寺遺跡・大谷沢Ａ遺跡・以前の上ノ平遺跡調査でも検出されている。

１号溝状遺構

19トレンチ、Ｄ－３・４、Ｅ－３グリッドにて検出。長さ・幅ともに1.8mで、確認面からの深さは約20ｃｍを測る。出土遺物はなく、時期は明確ではない。

２号溝状遺構

16トレンチ、Ｈ－15・16グリッドにて検出。16トレンチの東西方向に延びており、３号溝状遺構と重複している。長さは1.5m、確認面からの深さは約10ｃｍを測る。出土遺物はなく、時期は明確ではない。

３号溝状遺構

16トレンチ、Ｈ－16グリッドにて検出。16トレンチの東西方向に延びており、２号溝状遺構と重複している。また４号溝状遺構とも重複している。長さは 1.5m、確認面からの深さは約５ｃｍを測る。出土遺物はなく、時期は明確ではない。

４号溝状遺構

16トレンチ、Ｈ－16・17グリッドにて検出。トレンチの西壁、南半分で検出されている。長さは５ｍ、確認面からの深さは約20ｃｍを測る。ほぼ直線方向に延びており、主軸方向はＮ－２°－Ｗを測る。出土遺物はなく、時期は明確ではない。

５号溝状遺構

15トレンチ、Ｇ－17・18、Ｈ－17・18グリッドにて検出。トレンチの西壁で検出され、一方の立ち上がりは検出されておらず、幅がどれくらいになるかは不明。長さは9.5m、確認面からの深さは約30ｃｍを測る。ほぼ直線方向に延びており、主軸方向はＮ－25°－Ｗを測る。古墳時代土師器(１)の蓋が出土している。

６号溝状遺構

14トレンチ、Ｆ－22・23グリッドにて検出。トレンチの西壁で検出されたが、一部、ハタカンのパイプがあり検出できなかった。一方の立ち上がりは検出されなかった。長さは９ｍであるが、おそらくトレンチの南北方向全体に延びるものと思われる。確認面からの深さは約55ｃｍを測る。ほぼ直線方向に延びており、主軸方向はＮ－12°－Ｗを測る。出土遺物には灰釉陶器(２)と須恵器(３)がある。また、図示し得なかったが、縄文土器や土師器の小破片が出土している。

７号溝状遺構

12トレンチ、Ｆ－25・26グリッドにて検出。トレンチの西壁で検出され、一方の立ち上がりは検出されておらず、幅がどれくらいになるかは不明。長さは7.5m、確認面からの深さは約20ｃｍを測る。ほぼ直線方向に延びており、主軸方向はＮ－９°－Ｗを測る。出土遺物は図示し得ないが、黒曜石の剥片が一点出土している。時期は明確ではない。

８号溝状遺構

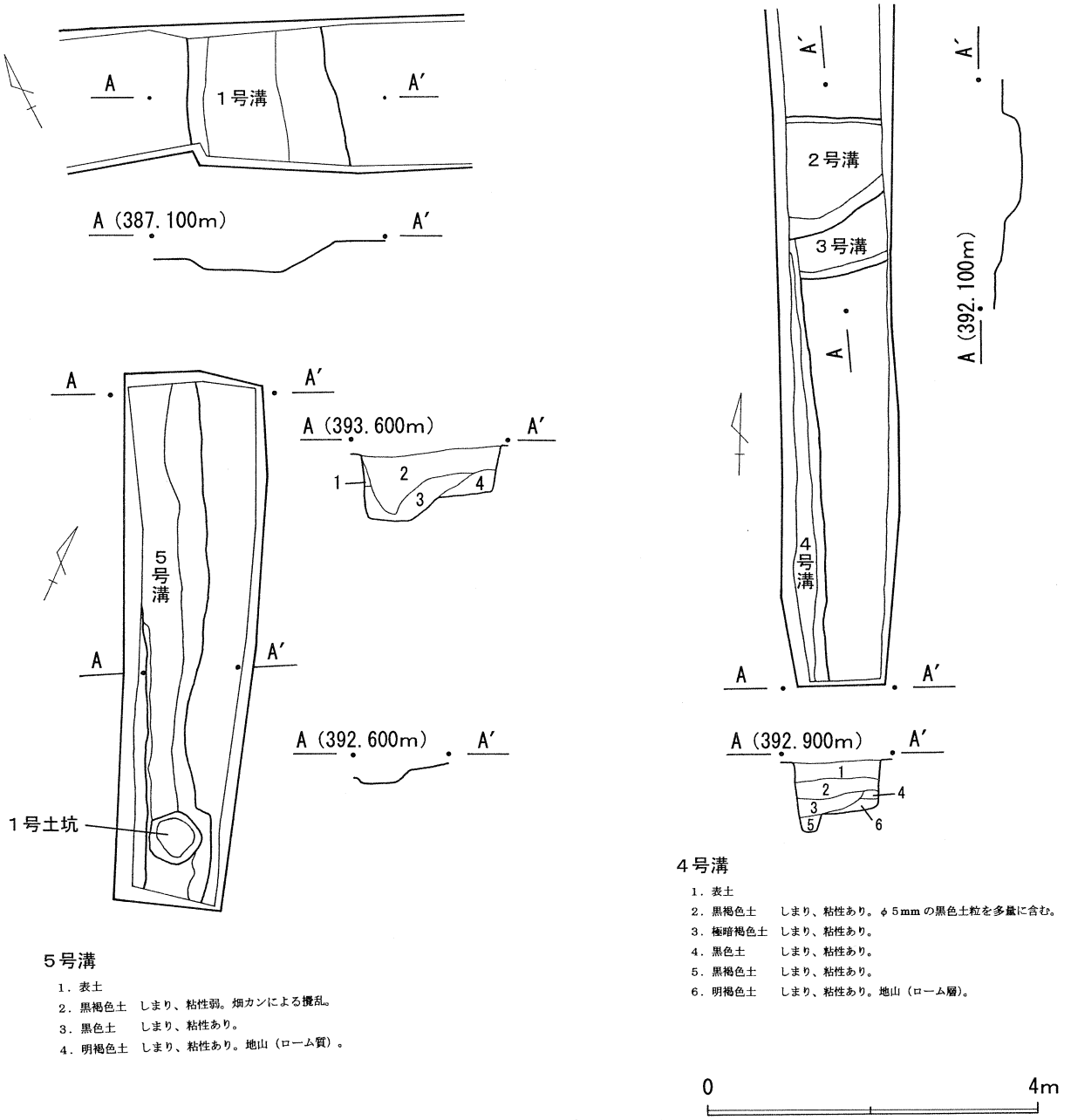
10 トレンチ、Ｅ－27・28・29、Ｆ－27 グリッドにて検出。トレンチの西壁で検出されたが、一方の立ち上がりは検出されておらず、幅がどれくらいになるかは不明。長さは 13.5m、確認面からの深さは約 20mを測る。ほぼ直線方向に延びており、主軸方向はＮ－５°－Ｗを測る。出土遺物はなく、時期は明確ではない。

９号溝状遺構

８トレンチ、Ｃ－32 グリッドにて検出。調査区における規模は、長さ約 1.4m、最大幅約 1.2m、確認面からの深さは約１ｃｍを測る。８トレンチの東西方向に延びている。出土遺物はなく、時期は明確ではない。

10 号溝状遺構

８トレンチ、Ｃ－32・33 グリッドにて検出。１号溝状遺構の並行する形で検出されている。長さは約 1.4m、最大幅 1.0m、確認面からの深さは約 10ｃｍを測る。出土遺物はなく、時期は明確ではない。



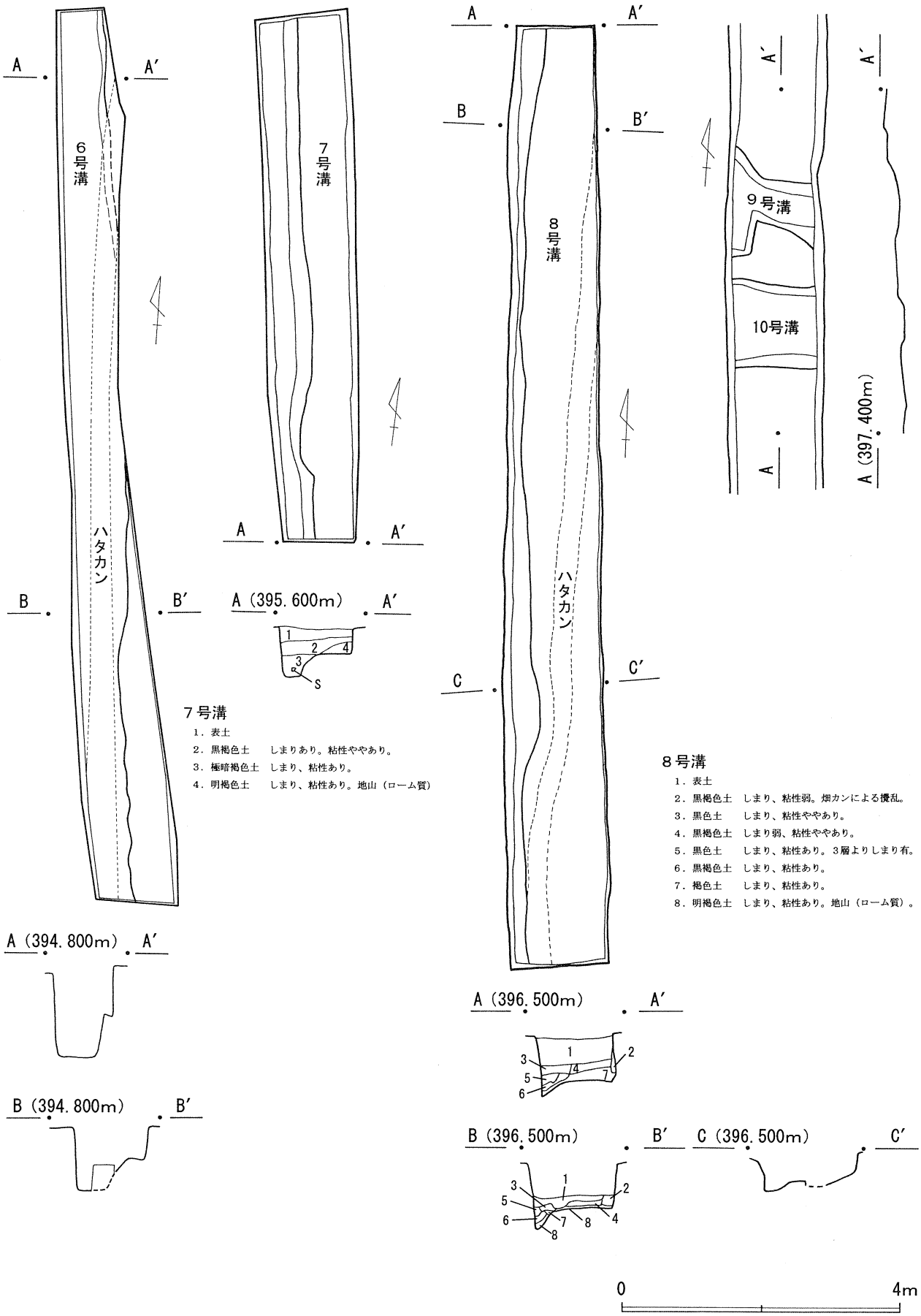
５号溝

1．表土
2．黒褐色土　しまり、粘性弱。畑カンによる攪乱。
3．黒色土　しまり、粘性あり。
4．明褐色土　しまり、粘性あり。地山（ローム質）。

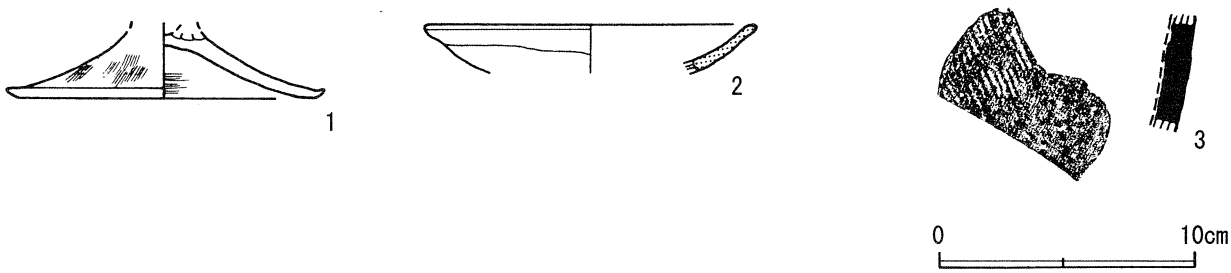
４号溝

1．表土
2．黒褐色土　しまり、粘性あり。φ５mm の黒色土粒を多量に含む。
3．極暗褐色土　しまり、粘性あり。
4．黒色土　しまり、粘性あり。
5．黒褐色土　しまり、粘性あり。
6．明褐色土　しまり、粘性あり。地山（ローム層）。

第 12 図　溝状遺構（１）


6号溝
ハタカン
7号溝
8号溝
ハタカン
9号溝
10号溝
A
A′
B
B′
C
C′
A (397.400m)
A (395.600m)
A (394.800m)
B (394.800m)
A (396.500m)
B (396.500m)
C (396.500m)
S
7号溝
1．表土
2．黒褐色土　しまりあり。粘性ややあり。
3．極暗褐色土　しまり、粘性あり。
4．明褐色土　しまり、粘性あり。地山（ローム質）
8号溝
1．表土
2．黒褐色土　しまり、粘性弱。畑カンによる攪乱。
3．黒色土　しまり、粘性ややあり。
4．黒褐色土　しまり弱、粘性ややあり。
5．黒色土　しまり、粘性あり。3層よりしまり有。
6．黒褐色土　しまり、粘性あり。
7．褐色土　しまり、粘性あり。
8．明褐色土　しまり、粘性あり。地山（ローム質）。
0
4m

第13図　溝状遺構（2）



第14図　溝状遺構出土遺物

第4表　上ノ平A遺跡溝状遺構出土遺物観察表

遺物番号	種別	器種	出土地点	口径 底径 器高(cm)	調整/施文/技法	胎土/焼成/色調	備考	挿図
1	古墳	蓋	5溝	— — —	内面—横位ハケメ 外面—縦位ハケメ	密（石英・長石・白・赤色粒子） やや不良 褐色	古墳時代前期。	14-1
2	灰釉陶器	埦	6溝	(12.8) — (2.0)	内外面—ロクロナデ	密(赤色粒子) 良好 灰白色	内外面に釉付着。	14-2
3	須恵器	—	6溝	— — —	外面—敲き目	密(雲母・白色粒子) やや不良 黄褐色	胴部破片。表面剥離。9世紀。	14-3

第6節　遺構外出土遺物、石器・鉄製品(第16・17図、図版3、第5・6・7表)

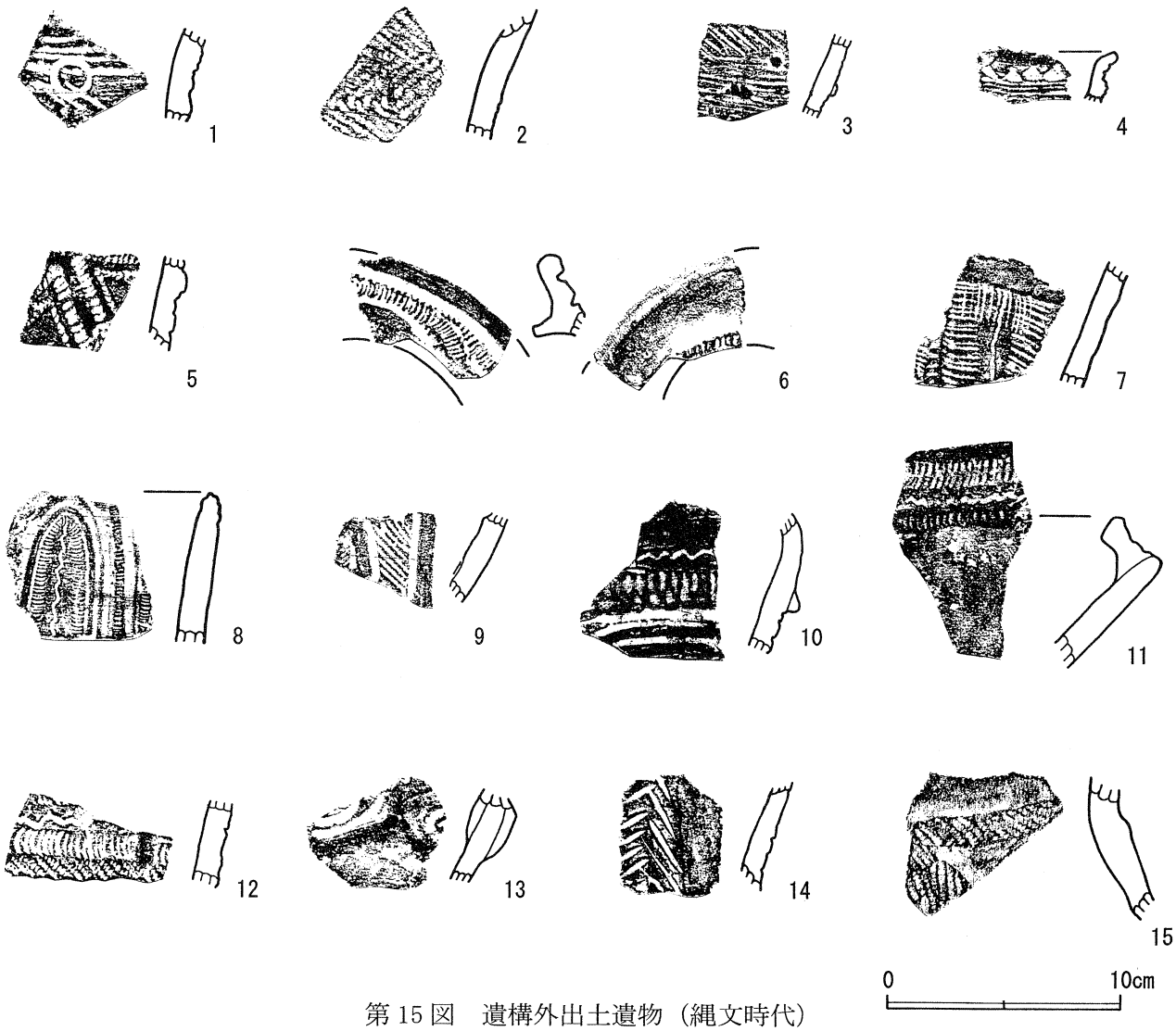
本遺跡からは平安時代の住居跡が1棟、竪穴状遺構1基、時期不明の土坑・ピット9基、溝状遺構10条の遺構が確認されている。また、それらとともに遺構外遺物も多数出土している。

縄文時代では、前期後半(15－1～3)、前期終末(15－4)、中期中葉(15－5～12)の、中期後半(15－13・14)、後期前葉(15－15)の土器が出土している。古墳時代では、甕の口縁（16－1・2）が確認されている。平安時代では土師器坏（16－3～8）が確認されている。

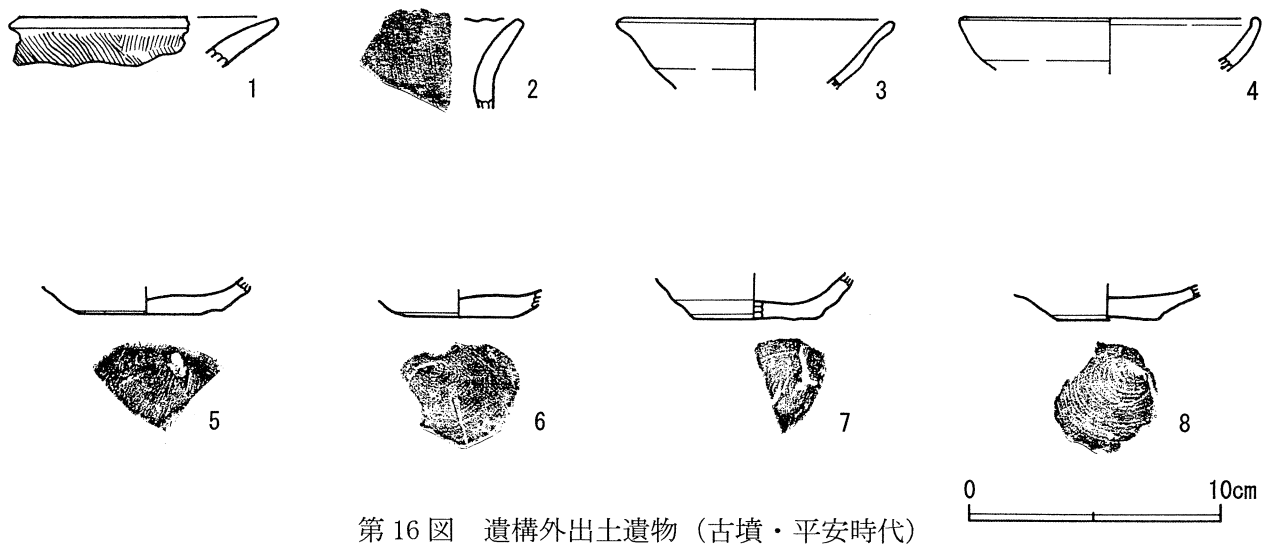
石器は第1節で述べたとおり、18トレンチ、H－11グリッドから旧石器が今回検出された。そして、1号竪穴状遺構の覆土からは黒曜石の石鏃（17－1）と用途不明の鉄製品（17－8）が確認されている。また、遺構外からは、黒曜石の石匙（17－2）、スクレイパー（17－3）や打製石斧（17－4）、磨石（17－5・6）などの石器、鉄釘（17－7）が確認されている。

遺構外遺物の出土状況をみると、18トレンチ地点から縄文時代の遺物がまとまって出土している状況が窺える。遺構は検出されなかったが、この地点は、台地上の東端に当たるので、台地には縄文時代の遺構の存在が考えられる。

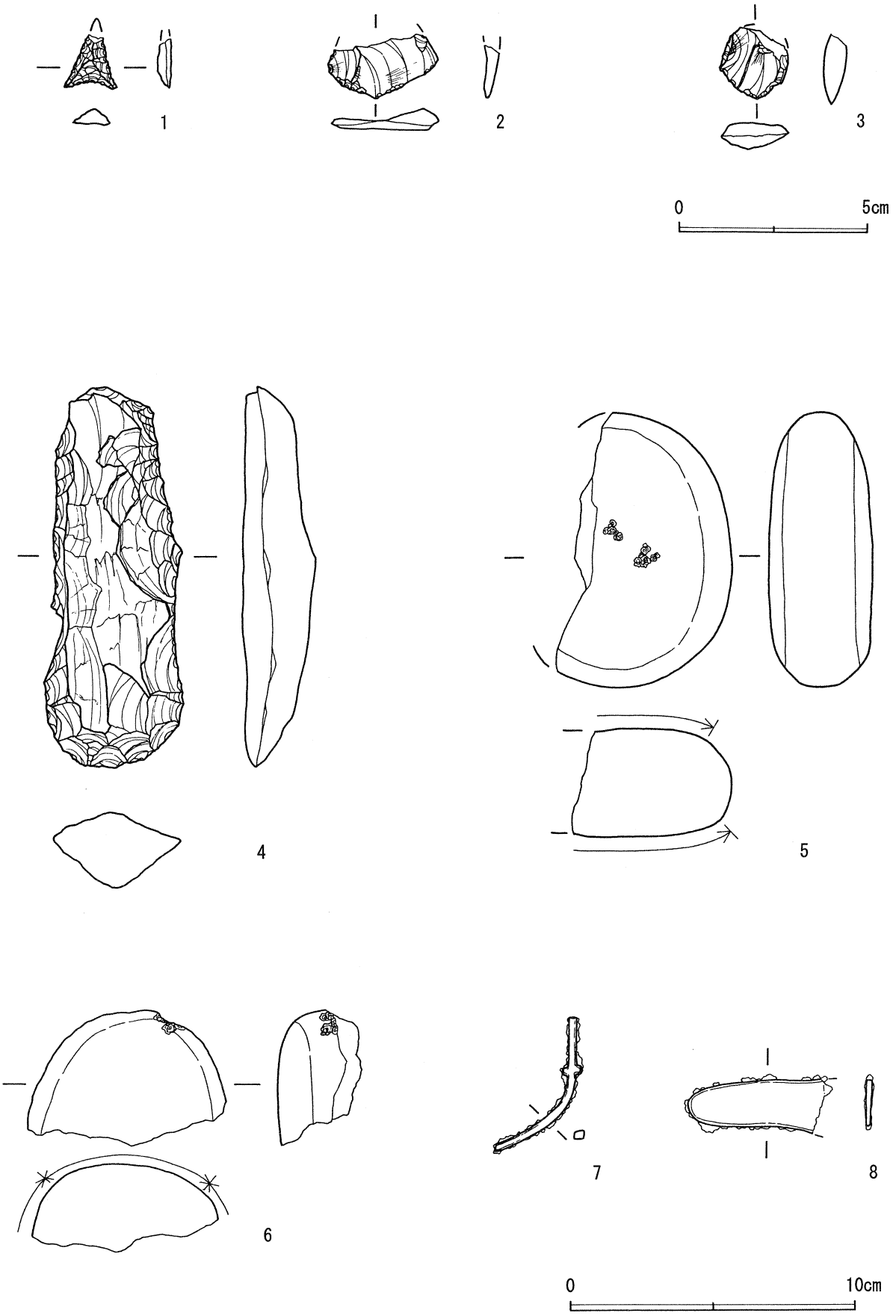
また、1号竪穴状遺構では、覆土中から縄文時代前期、弥生時代後期、古墳時代、平安時代の土器が出土している。石鏃と鉄製品も確認されているが、17トレンチにおいても縄文時代前期、古墳時代、平安時代と多岐にわたって遺物が出土していることが確認できる。



第 15 図　遺構外出土遺物（縄文時代）



第 16 図　遺構外出土遺物（古墳・平安時代）



第 17 図　石器・鉄製品

第５表　上ノ平Ａ遺跡遺構外出土遺物（縄文時代）観察表

遺物番号	部位	出土地点	調整/施文/技法	胎土/焼成/色調	備考	挿図
1	胴	18Ｔｒ（Ｆ－９）	平行沈線文・円形竹管文	密（石英・長石・白・赤色粒子）やや不良 褐色	前期後半。	15-1
2	胴	17Ｔｒ	ＲＬの単節縄文による羽状縄文	密（赤色粒子）良好 灰白色	前期後半。	15-2
3	胴	３Ｔｒ	ボタン状貼付文・集合沈線文	密（石英・長石・白・赤色粒子）良好 褐色	前期後半。内部にスス付着。	15-3
4	口縁	18Ｔｒ	平行沈線文・三角印刻文	密（石英・赤色粒子）良好 赤褐色	前期終末期。	15-4
5	口縁	18Ｔｒ（Ｆ－７）	連続爪形文・三角押文	密（長石）良好 明赤褐色	中期中葉。	15-5
6	把手	18Ｔｒ	連続爪形文・押引文	密（長石・石英・白色粒子）良好 明赤褐色	中期中葉。	15-6
7	胴	18Ｔｒ	波状沈線文・押引文・連続爪形文	密（長石・金雲母・石英）良好 明赤褐色	中期中葉。	15-7
8	胴	18Ｔｒ	楕円区画文・波状沈線文・連続爪形文	密（長石・赤色粒子）良好 褐色	中期中葉。	15-8
9	胴	表採	縦位区画文・並行沈線文	密（長石・赤色粒子）やや良好 明赤褐色	中期中葉。	15-9
10	口縁	表採	波状沈線文・交互刺突文	密（長石・赤色粒子）良好 明赤褐色	中期中葉。	15-10
11	口縁	18Ｔｒ	波状沈線文・押引文	密（長石・石英・金雲母）良好 褐色	中期中葉。	15-11
12	胴	18Ｔｒ	連続爪形文・波状沈線文・ＲＬの単節縄文	密（長石・赤色粒子）良好 褐色	中期中葉。	15-12
13	胴	10Ｔｒ	渦巻文	密（長石）良好 明赤褐色	中期後半。	15-13
14	胴	18Ｔｒ（Ｌ－８）	「ハ」の字文	密（長石・小礫）良好 褐色	中期後半。	15-14
15	胴	18Ｔｒ	磨消縄文	密（長石・小礫）良好 褐色	後期前葉。	15-15

第6表　上ノ平A遺跡遺構外出土遺物（古墳・平安時代）観察表

遺物番号	種別	器種	出土地点	口径 底径 器高(cm)	調整/施文/技法	胎土/焼成/色調	備考	挿図
1	古墳	甕	17Tｒ	— — —	内面—ハケ整形後、ヘラ磨き 外面—ハケメ	密(石英・赤色粒子) やや不良 明赤褐色		16-1
2	古墳	甕	表採	— — —	外面—ハケメ 口唇部に刻目	密(赤色粒子) 良好 黄褐色	古墳時代前期。	16-2
3	土師器	坏	13Tr	(10.5) — —	内外面—ロクロナデ	密(赤色粒子) やや良好 赤褐色		16-3
4	土師器	坏	13Tr	(11.5) — —	内外面—ロクロナデ	密(白色粒子) 良好 赤褐色		16-4
5	土師器	坏	15Tr	— 5.8 —	底部—回転糸切り	密(白色粒子) 良好 明赤褐色	表面剥離が顕著。	16-5
6	土師器	坏	表採	— 4.8 —	底部—回転糸切り	密(白・赤色粒子) 良好 明赤褐色	底部。内面に少量ススが付着。	16-6
7	土師器	坏	表採	— 4.2 —	底部—回転糸切り	密(赤色粒子) 良好 赤褐色		16-7
8	土師器	坏	17Tｒ (H-13)	— 4.6 —	底部—回転糸切り	密(白色粒子) 良好 明赤褐色	底部。内面に少量ススが付着。	16-8

第7表　上ノ平A遺跡出土石器・鉄製品観察表

遺物番号	出土地点	分類	長/幅/厚(cm)	石質	g	備考	挿図
1	竪穴状遺構	石鏃	1.2・1.4・0.4	黒曜石	0.44	一部欠。	17-1
2	10Tr	石匙	1.4・2.9・0.3	黒曜石	1.47	横型。	17-2
3	16Tr	スクレイパー	1.8・1.8・0.7	黒曜石	1.77		17-3
4	18Tr	打斧	13.5・4.6・2.5	ホルンフェルス	200.82	撥形。	17-4
5	18Tr	磨石	9.8・—・3.8	安山岩	320	使用痕あり。	17-5
6	17Tr	磨石	—・4.7・3.2	安山岩	100.29	使用痕あり。	17-6
7	10Tr	鉄釘	(6.0)・0.3・0.4	鉄	4.57	一部欠。	17-7
8	竪穴状遺構	鉄製品(不明)	(4.9)・1.7・0.2	鉄	6.53		17-8

第Ⅴ章　まとめ

今回の調査地である上ノ平A遺跡は笛吹市八代町米倉地区の浅川左岸の丘陵上に位置している。この丘陵は盆地から急傾斜で立ち上がり、丘陵上には東西300m、南北600mほどの広さを有する北向きの緩やかな傾斜の平坦部がある。本遺跡はその東端の標高380mから410mの所に位置している。

調査は、極めて狭い幅のトレンチ調査であった。そのため、竪穴住居が検出されたが、集落の広がりや遺構群の展開といった全体像を把握することはできなかった。

今回の調査によって、平安時代の竪穴住居跡が1棟、竪穴状遺構1基、時期不明の土坑・ピット9基、溝状遺構10条、そしてそれらに伴う遺物が確認されている。また、旧石器時代の石刃状剥片が検出されている。

本遺跡は以前に調査が行われている。そして、縄文時代と弥生時代を中心とする遺跡であることが把握されていた。しかし、今回の調査によって平安時代の住居が確認され、この台地上に平安時代の人々が生活していたことが判明した。

竪穴住居は一部攪乱を受けていたが、11世紀前半代の土器がまとまって出土しており、当該期の住居跡とした。

竪穴状遺構に関しては、遺構覆土より焼土塊を検出した。焼土塊は多量の焼土ブロックや粘土を含んでいた。形態は一部の検出のため不確実であるが、方形を呈すると考えられる。竪穴住居となる可能性もあるが今回は竪穴状遺構と呼称している。覆土中からは縄文前期、弥生後期、古墳・平安の時期の遺物が出土している。

土坑・ピットに関しては土器等遺物が検出されず、用途や性格を判断するには至っていない。

今回の調査で注目される点は、溝状遺構である。4・5・6・7・8号溝状遺構は同一のものと考えられるが、同様の遺構は同じ台地上に位置する真福寺遺跡や大谷沢A遺跡、そして以前の上ノ平遺跡の調査でも検出されている。今回の溝はほとんどが調査区外に延びており全貌は不明瞭だが、覆土中より古墳・平安時代の土器が出土している。また、図示し得るものはないが、縄文土器や平安時代の土師器、黒曜石の剥片が少量出土している。

大谷沢A遺跡では、確認された部分の長さは約47m、深さは約20～50ｃｍ、幅は約88～205ｃｍである。遺物は覆土中より縄文式土器、平安時代の土師器、石鏃、黒曜石の剥片が少量だが出土している。平安時代の土師器が出土していることから、平安時代の所産と推定されている。

真福寺遺跡では、確認された部分の長さは約36.5m、深さは約60～80ｃｍ、幅は約1.5～2ｍである。内部は黒褐色土・黒色土が充満し、有機物を多量に含んでいる。遺物は、縄文時代と平安時代のものが出土している。

以前の上ノ平遺跡の調査では、確認された部分の長さは約100mで、幅は1ｍを超える箇所もあり、深さは深い所で150ｃｍ近くを測る所もあり、浅い所では20～30ｃｍである。縄文時代の住居跡をはじめ、弥生時代の住居跡などを切って構築されており、また複雑にそして縦横に走っている。遺物は覆土中より縄文土器・弥生土器・石器・近世陶器片・古銭などがきわめて濃厚に出土している。

大谷沢A遺跡や真福寺遺跡、そして上ノ平遺跡での溝状遺構は同じような性格を有しており、これらは一連の集落跡の可能性が考えられている。今回の調査によって検出された溝もこれらの遺跡の溝と同様の性格を有しており関連するものであると思われる。つまり、台地上に広域にわたって集落が広がっていたのではないだろうか。

本町での平安時代の遺跡分布は一般的に後半期になるとその数を増やしつつ、盆地全域にわたって遺跡を拡散しながら山間部にまで広く分布するようになる。本遺跡もこれまであまり集落が確認されていない浅川左岸にあるまさにその時期に広がった集落の一部であったと考えられる。

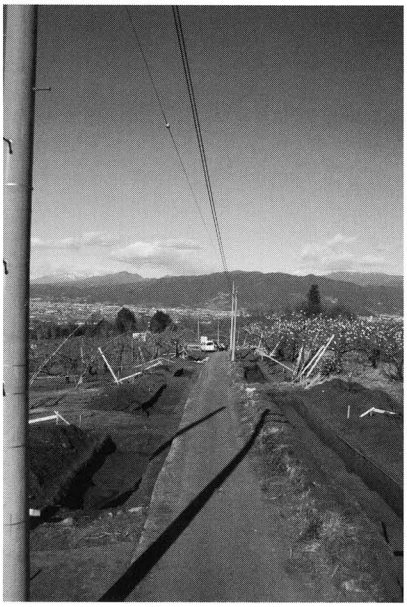
参考文献

・『上の平遺跡』1985　八代町教育委員会
・境川村埋蔵文化財発掘調査報告書第10集『仲原遺跡・真福寺遺跡』1994　境川村教育委員会
・八代町埋蔵文化財調査報告書　第8集　『大谷沢A遺跡』　1994

図　　版

図版1

1．遺跡調査前状況（南から）



2．遺跡調査区近景（南から）

3．圃場整備地区掘削状況（南から）

4．1号竪穴住居跡検出状況（南から）

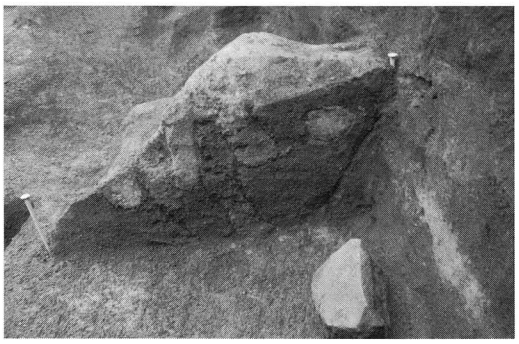
5．1号竪穴住居跡完掘状況（南から）

6．1号竪穴住居跡内土坑検出状況（東から）

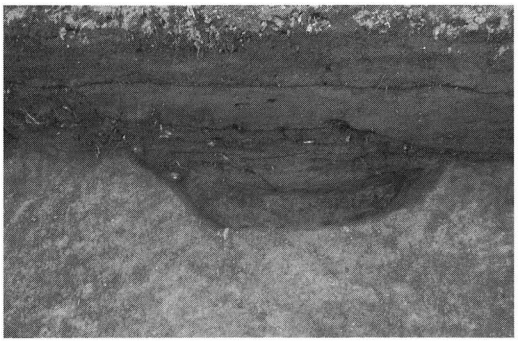
7．1号竪穴住居跡内土坑完掘状況（南から）

図版２

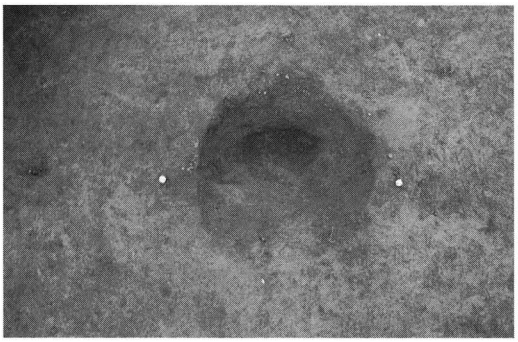
８．１号竪穴状遺構完掘状況（北から）



９．１号竪穴状遺構焼土塊半裁状況（西から）



10．３号土坑完掘状況（東から）



11．６号ピット完掘状況（南から）

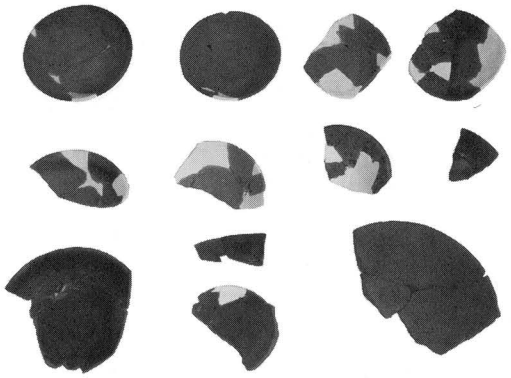
12．１号溝状遺構完掘状況（北から）

13．５号溝状遺構完掘状況（南から）

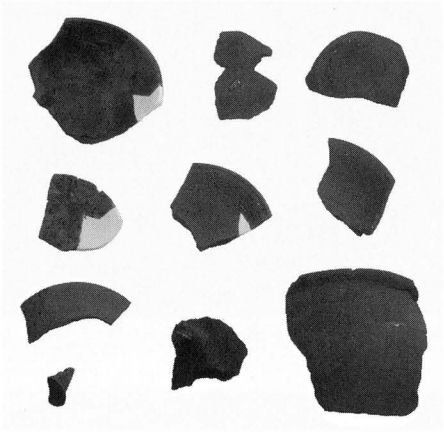
14．７号溝状遺構完掘状況（南から）

15．９・10号溝状遺構完掘状況（南から）

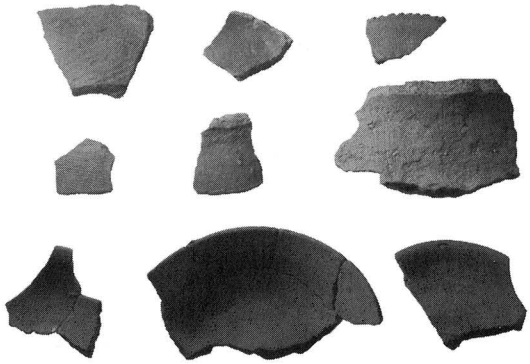
図版3



16. 1号竪穴住居跡出土遺物 ①

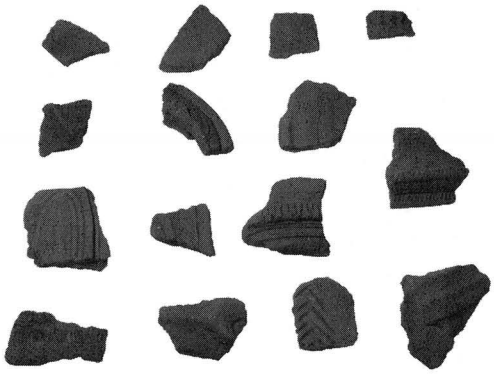


17. 1号竪穴住居跡出土遺物 ②

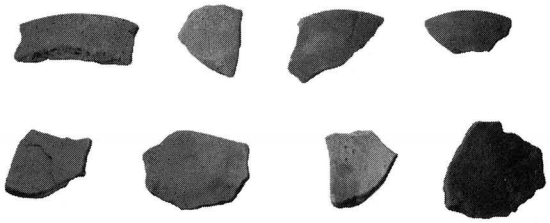


18. 1号竪穴状遺構出土遺物

19. 溝状遺構出土遺物



20. 遺構外出土遺物（縄文時代）



21. 遺構外出土遺物（古墳・平安時代）

22. 石刃状剥片

23. 石器・鉄製品

報告書抄録

ふりがな	うえのだいらＡいせき
書名	上ノ平Ａ遺跡
副書名	中山間地域総合整備事業八代地区米倉農道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ名	笛吹市文化財調査報告書
シリーズ番号	第18集
編著者名	鷹野義朗
編集機関	笛吹市教育委員会
所在地	〒406-0031　山梨県笛吹市石和町市部809-1　TEL 055-261-3342
発行年月日	2011年３月30日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m^2	調査原因
		市町村	遺跡番号					
うえのだいらＡいせき 上ノ平Ａ遺跡	やまなしけんふえふきしやつしろちょうよねぐらあざうえのだいら2085-66ほか 山梨県笛吹市八代町米倉字上ノ平2085-66他	251	123	35度 36分 ３秒	138度 38分 ９秒	2009.11.18 ～2010.１.５	766.5	農道整備 圃場整備

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
上ノ平Ａ遺跡	集落跡	縄文 ～近世	竪穴住居 溝状遺構	縄文土器 土師器 石器 鉄製品	

笛吹市文化財調査報告書　第18集

上ノ平A遺跡

発行日　平成23年3月30日
発　行　笛吹市教育委員会
印　刷　瀬田印刷社
山梨県笛吹市御坂町蕎麦塚489

Fuefuki City Archaeological Report Vol.18

The Report of Archaeological Research of UENODAIRA-A-Site

Archaeological Survey Prior to
the Construction of the Farm Road in Yonegura Area
(Integrated Land Improvement Operation in Yatsushiro)

March,2011

Agricultural Department,Yamanashi Prefectural
Development Office of Kyoto Area
Fuefuki City Board of Education